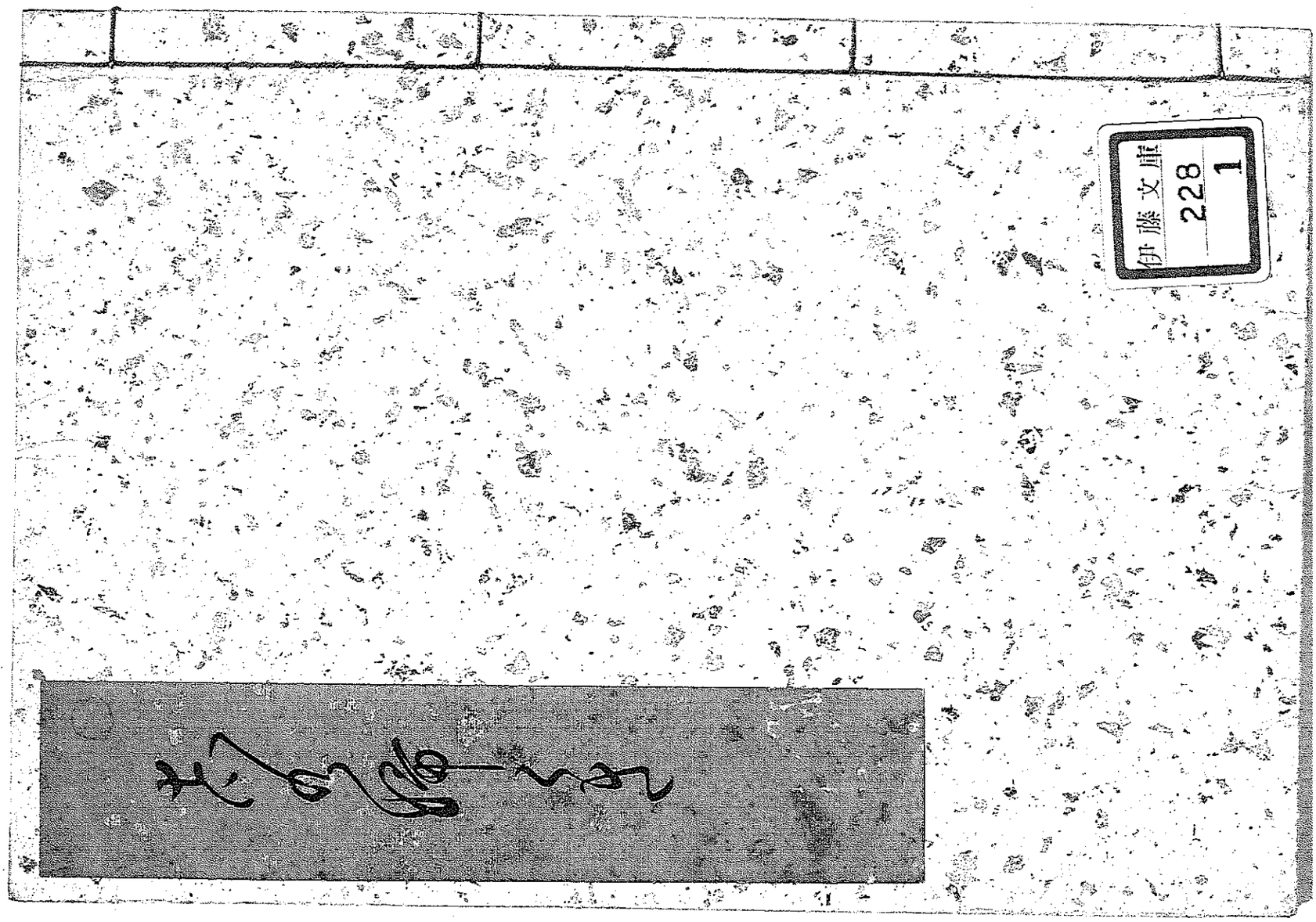


伊藤文庫
228
1

市名図書館之印

序

昔者戊辰ノ役我桑名藩ノ立脚地トシテ頗ル困難ニ遭遇シタリ然ルモ我等一團ハ君國ノ爲メ微軀ヲ忘レ各地ニ轉戰シ大ニ努メタリト雖時不利シテ終ニ忠死ノ士一百有餘人ヲ出スニ至レリ後チ其英魂ヲ吊ハンカ爲メ桑名城趾本丸ニ招魂社ヲ建テ年々之カ祭祀ヲ怠ラサリキ今玆大正六年ハ其五十周年ニ當ルヲ以テ甲子ノ役及其後ノ國事ニ殉セル者トヲ併セテ臨時大祭ヲ執行スルコトヽナリ鄉黨ノ有志者ト謀リ殉難者ノ威靈ヲ慰メンカ爲メ詩歌ヲ詠進シ且ツハ大祭紀念トシテ之ヲ後世ニ傳ヘンコトヲ庶幾シタリ大方ノ諸彦

ハ此舉ヲ協賛シ以テ寄送セラレタルモノ六百五十有餘首僅々二十有餘ノ短時日ニ於テ此ノ如キノ大數ヲ得タルハ洵ニ望外ノ幸ナリキ今之ヲ剞劂ニ付セントスルニ際シ不肖貞作ハ當時ノ戰役ニ參加シ幸ニ生存者ノ一人ナルヲ以テ卷首ニ一序ヲ草センコトヲ需メラレ之ヲ辭スルコトヲ得ス敢テ筆ヲ呵シテ聊其責ヲ塞クノミ時會梅天ニ接シ蜀魂ハ血ニ叫ヒ躑躅ハ紅ヲ吐ク嗚呼五十年前ノ事ヲ回顧シテ感慨措ク能ハサルモノアルヲ奈何セン

大正六年五月

高木貞作識

凡例

一編纂の順序は和歌を先とし俳句、漢詩、之に次き氏名はいろは順に從ひ(る)は(い)に(お)は(を)に纏め其の外(か)(こ)(ら)(ゐ)の如き音韻相通ふものは字義を正さす便宜集錄せり

一原稿に位勳官職等の記載ありしものを首位としつれとも或は位列を誤りたるものあらは乞ふひたふるに宥恕せられんことを

一位勳等の記載なきものはいろは順の範圍内にて地方別に重きを措きたる爲松と郭公と叙列の齊しからぬものあるも之を改むるの勞を省けり

一玉詠文字の其の儘を印刷に爲さんは困難に付仮名は総て一体のものに改む而して仮名違ひと認めた

るものは僭越なから訂正して印刷に付したり

一玉詠に一題二首以上ありしものは其の中一首を掲載せり

但し玉詠原稿は簿册に作成して永久社に保存す

一玉詠寄贈者の三重縣に屬するものは肩書に態と其の縣名を省略せり

一原稿復寫の書損或は活字の誤植等は精々注意校合しつれとも仍は誤りたるものなしとせす是亦宥恕を乞ふ

編者識

桑名藩戰死者五十年

從四位子爵　松平定晴

國の爲いのちすてにしますら夫の
みたままつりに逢ふそ嬉しき

松平子爵夫人　松平榮子

國の爲つゆと消ねてしいさをしは
のちの世までもかかやきにけり

ささけにし玉のを故にちち君は
安けき老をかさねましつる

父君に代りてうせしますらをの
たふときみたま遠くをろかむ

和歌

寄松述懷

兵庫縣明石町陸軍少將　今橋知勝

見るほどの花は咲かねといろかへぬまつの操を心ともかな

志摩郡長岡村神職勳八等　家田九兵衛

ありし世のいさをの數の數數を松の葉かすにとりて稱へむ

桑名郡桑名町勳八等　石原忠治

花紅葉ともにめてたしさはあれと松の常盤を心ともかな

飯南郡櫛田村長勳八等　飯田市藏

年を經ていよいよ高きいさほしは千とせの松のすかたなりけり

員辨郡稻部村郷社猪名部神社社司　石垣静雄

あらしにはあらそひかねていさきよくをれにし松のををしきろかも

桑名郡桑名町岩尾惇忠

この松のもとにあそひしそのかみの友もすくなくなりにけるかな

伊藤紀三郎

かくはかりみなかはりゆく世の中に松の葉色はむかしなりけり

石原爲量

一しほのみどりいろそふ松か枝に花をさまても思ひけるかな

入澤源藏

君かため碎きし玉の緒は八千代まつの緑の色に出つらむ

井上鍵次郎

いそのかみのむかしをかたる老松になき魂しのふけふのみまつり

益生村市岡松次郎

大君のめくみをうけてちよ八千代かはらぬ松の色みするかな

員辨郡大泉村伊藤克巳

たのもしきかたみの松のみとり子の千代も經ぬへき色をみる哉

十社村伊原久一

君ならて誰かは知らむ千代の松むかしかたりをわれにゆるせよ

鈴鹿郡龜山町石川直記

千歳經し松のみとりも色そひぬなき人こふるみたままつりに

南牽貫郡相野谷村井之元伊左衛門

年立ちて高き操のいよいよ增す松吹く風に昔おもはゆ

愛知縣幡豆郡一色村池田芳三郎

武士の赤きこころも千代かけてちきるは松のみとりなりけり

三河國幡豆郡一色村　井川隆逸

ゆきしもをしのきて松のみとり哉人のゆくへもかくやあるらむ

桑名郡深谷村　五十嵐良子

なもたかき桑名の城にのこりたる松にむかしのしのはるるかな

東京市麹町區下二番町陸軍少將從四位勳三等　林錬作

神風の伊勢の濱松とこしへにみさを正しく生茂るらむ

一志郡久居町野邊野神社社掌　橋野又三郎

おのか身を粉にして盡すまこころを松のみさをにたくへてそみる

桑名郡城南村　伴又一

ときはなる松はむかしにかはらねとかはりし城のあとそしのはる

員辨郡治田村　服部義夫

常盤なるにはの老松みるたひにおこたりかちの身をはつるかな

同　十社村　林李兵衛

幾千代もかはらぬ松のふかみとりしけるや君の惠みなるらむ

同　林直也

武士の立てしみさをは老松のみとりに今もみゆるなりけり

鈴鹿郡龜山町　服部和平

よしや世のをの上のまつはかれぬともたてしいさをや千代にくちせし

河藝郡上野村僧侶　長谷部了雄

雨かせにうつろふ花はいろかへぬ松のいさををいかにみるらむ

度會郡鵜倉村　服部瑞龍

風吹けは古りし松か枝しのふかな國に盡せし丈夫の魂

東京市本郷區丸山新町　萩谷勇吉

かたりつきいひつきゆきて我世よりのちのかたみはこれの大さつ

愛知縣名古屋市矢場町　羽塚啓明

ことしけきよにたちなから色かへぬまつのみさををこころとはせむ

員辨郡治田村　服部春江

おこたれる己か此身にくらふれはにはの松にもはつかしきかな

同　十社村　林貞都子

みとりこき御城の松にありし世の君のみめくみ思ひこそやれ

桑名郡桑名町　正六位勳五等　西塚宗吾

いそのかみふりにしまつもこゑありてをれし梢のむかしをそたゐふ

同　多度村　西田喜兵衛

五十年のむかしの松はかはらねとかはりはてたる人の世の中

河藝郡豐津村　丹羽英太郎

かせになりあめにさらしていくとしをたつとも松のいろはかはらし

武藏國中野町陸軍少將從四位勳三等　本庄道三

老松の今こそ千代と榮ゆめれゆき折のあとの遺るかなしさ

飯南郡櫛田村　堀六右衛門

そのむかしたてし操はみ大城の松やかたらむ歳は經れとも

東京芝西久保廣町　北條數馬

うせにける人のいさををしのひつつ高くそ仰く峯の老松

東京府豐多摩郡澁谷町中澁谷　本多晋

吹風にをれても千代に傳へけりくはなの濱の松のみさをは

桑名郡桑名町　北條かめ

五十年の昔を偲ふますら男のいさをと松をあふくけふかな

同　北條きやう

もののふのはまれと空にいや高くしけり榮ゆるみきの老松

桑名郡桑名町　大橋辰次郎

御社の松のみどりは今もなほむかしなからの姿なりけり

員辨郡治田村　岡田倉太郎

いろかへぬ松のみさをに似たる哉君に盡しし人のいさをは

東京市牛込區横寺町　太田直樹

しけりあふ松にこそしれもりたてし昔の人のたかきいさをを

愛知縣愛知郡御器所村　岡田繁

いくちとせ榮ゆ榮ゆて大君の御代にあふみの唐崎の松

桑名郡桑名町　大橋すへ

常盤なる松のみどりは五十年をふりし昔も今もかはらし

員辨郡治田村　太田絹枝

千世ふへき城に殘れる老松にむかしのさまをきかまほしけれ

東京麻布飯倉片町　岡三保

風をれし昔はしらすとしをへて桑名の濱の松そさかゆる

横濱市南太田町　小野寺みさを

霜雪にいく度逢ふも色かへぬ松の操を心さも哉

東京市芝區西久保櫻川町正八位　和田綱紀

名にしたふ我かふる里の老松は枯れてもよしや操たはまし

愛知縣立第五中學校教諭　渡邊興衛

あらましきかせにもまれて色かへぬ松の緑をみどりとそみる

安濃郡新町村社國魂神社社掌　渡邊顯次郎

千代ふれと色もかはらぬ松かゆは國のしつめの姿なりけり

志摩郡鳥羽町鄕社賀多神社社司　渡邊惣

波風をしのきてたてる老松はむかしをかたるとこちとそすれ

桑名郡　桑名町　渡邊兼藏

葉かへせぬ松のみとりは身をすてしむかしの人のみさをなるらむ

同　渡邊嘉藏

千はやふる神の御垣にますら男のいさをし高くあふく松かな

多氣郡　齋宮村　渡邊勝藏

はるくれは庭の老松みるごとにわかかへるこそなつかしき哉

桑名郡　桑名町　渡邊さた

うふすなのもりをくらくも茂りあふ松こそ世世のかたみなりけれ

同　渡部ふみ

大御城の松の榮ゆをあふきつつますらたけ男のむかししのはゆ

同　正七位　勳六等　葛山虎一

何事もおこたらすして榮ゆゆくまつのみさををかかみともかな

朝鮮江原道横城從七位勳八等　兼松正人

限りなく榮えむ松も五十年をすくれは遠きむかしなりけり

桑名郡　楠村　勳八等　金森梅太郎

とことはに根さし固むる老松の高き操のあふかるる哉

南牟婁郡有井村大馬神社社掌　河野七郎

御社のい垣かもとの老松は今も昔しの色はかはらし

桑名郡　長嶋村　金森宗温

すめ國のしつめとまても仰かるる老木のまつそたふとかりける

河藝郡　上野村　笠井理一

ふかみどりいまもかはらぬ松みても君かゐましましむかしをそたもふ

同　白子町　梶口德次郎

われをしる人こそよにはなかりけれまつふくかせのたとにたつれと

一　志　郡　雲　出　村　加　藤　和　義

國のためつくしし人のいさをしをかはらぬ松にあふきみるかな

飯　南　郡　西　黒　部　村　川　村　保　武

千歳へし老木の松にしのふなりふるき言の葉しるとも思へは

志　摩　郡　御　座　村　勝　峯　俊　道

我心かくもありたくおもふかなみさを正しき城山の松

三　重　郡　下　野　村　加　藤　卯　之　助

千代八千代榮えむ松ともろともに君かいさをや久しからなな

桑　名　郡　桑　名　町　貝　塚　みつ子

いそとせのむかしをしのへはみやしろのみしめの松も神さひにけり

同　大　山　田　村　加　藤　みつ

幾千年霜をしのきて老松のふかき色こそみさをなりけれ

佐　世　保　潮　見　町　滝　生　まよ

いにしへの城の名殘もなきあとに今もかはらぬ松の色かな

朝　鮮　江　原　道　横　城　兼　松　きく子

松風の音はむかしにかはらねとかはりはてたる城のあと哉

桑名郡大山田村從六位勳五等　館　潔　彦

契り越し尾野山の邊の挿松いつ世繼きして常盤なるらむ

同　桑名町判事從六位勳六等　高　松　範　重

武士の道のほまれをとめけり名も高砂の松にたくへて

同　正　八　位　種　瀬　包　直

君かため花とちりにしもののふのみさをや松の緑なるらむ

阿山郡丸柱村諏訪神社社掌　田　伏　小　馬　男

唐崎の松をためしに世をや經む比叡のおろしもよそにふかして

四日市市濱一色　津田よしね

たれか世に植ておきけむ神垣の其かみかたれ千代の老松

同　縣社諏訪神社社司　生川銕忠

いかによはくたち行くとも色かへぬまつのこころをこころともかな

度會郡中川村　中西重藏

武夫のほまれを千代に語るかな常盤の松の色の榮ゆて

南牟婁郡上川村　中尾松珀

年毎にまつのみとりにうつろひていさをそのこる伊勢の海のたも

東京府豊多摩郡杉並村　中野廣

玉垣の常盤の松はみことらのたてし功のかたみとそみる

東京市神田區神保町　中村德重郎

年ことにみとりもふかき老松にたくひて其名世世にくちせし

神奈川縣久良岐郡金澤村　永嶋忠篤

ますらをのきよきみさをは老松のみとりと共に千代もかはらし

同　永嶋須磨

年なれし松の千とせをかへりみて我か世もいたくふりにける哉

廣島市國泰寺町　楢村千代子

神風のいせの桑名の城あとにちよを根さしの松そのこれる

桑名郡桑名町　楢村茂子

いろかへぬ千代田の松はいまもなほ昔なからのすかたなるらむ

同　城南村　中澤つね

君かそのたてしいさをの色はゆてみとりいろこき庭の老松

津市西堀端　直邨長子

かけ高き松の一むらしつかにていにしへおもふ神まつりかな

東京市芝公園中西ます

わか心いはほに根さす老松のつよくけたかくもたまほしけれ

神奈川縣金澤村氷嶋八百子

いまは世に後るる身こそかこたるれ榮行く松をみるにつけても

度會郡神社町村社箕曲神社社掌　向井淳

君と國おもふまことを人問ははこき盤の松の色ことたへむ

桑名郡大山田村村上得宗

そらたかくそひゆる松は城あとのむかしをおもふかたみなりけり

同　村上あい

そのむかしうゑつらねたる常盤木もいまはさひしくみゆるしろあと

桑名郡桑名町村田りむ子

つくも髪くしけつる度思ふ哉こきはかきはの松のみどりを

東京市小石川區指ケ谷町大教正　内田駒太郎

人心かくもあれかしとおもふ哉松のみさををためしにはして

度會郡嶋津村神職　植村寅吉

春ことに松のみどりはかはらねこうつろひやすき世をいかにせむ

阿山郡上野町　上野末千代

けふまつる神の功は高砂の松の千とせもかをりこそすれ

安濃郡片田村村社八乳合神社社掌　野田貞次郎

ちよまてといのるしるしを神垣に植ゑし小松の榮白めくらむ

桑名郡深谷村　野田小三郎

霜雪の積らはつもれ御垣邊のまつは常盤の色そいやます

安濃郡片田村　野田産石

年經たるみそのの松は變らねとかはる浮世の身をいかにせむ

東京牛込區藥王寺前町　乘竹ろく子

千代ふれと操正しき松をみてうせにし人の心しのびぬ

桑名郡桑名町法山しげ

そのかみのいさををかたるここちしていとなつかしきみきの松かせ

東京府豐多摩郡代々幡町代々木
陸軍中將從四位勳三等功四級　久能司

しもを經て後にしらるる老松のみさをを人のかがみなりける

飯南郡松坂町從六位勳六等　栗田覺治

いさをしはその名もたかき高砂の松こそ世にはわすれさるらめ

桑名郡桑名町正八位勳八等　久我清民

ときはなる松のよはひを身にしめて君が八千代にあふよしもがな

飯南郡松坂町縣社山室山神社社掌　久世安重

世のさまはうつりゆけどもときはなるみさををかへぬまつのいろかな

三重郡朝日村　栗田仁三郎

御園生のももよろづ枝の老まつもみよの榮ゑにいよよしげらむ

朝鮮元山府　久我清廣

いさをある人といはれて榮ゆく松にあゑなむ千代の末まで

桑名郡桑名町　久我千代子

武士の國につくしいさをしをときはかきはの松にたとへむ

同　栗山ふみ

年毎に松のみとりのいやまして五十路のむかしのひぬる哉

朝鮮元山府　久我嘉代子

千とせへむ友となさはやときはなるまつのみさをを心にはして

三重郡朝日村　栗田わね

なき人のみ魂もともる心地して御城のあとたかくあふく松かな

桑名郡　大山田村　山本源太

城あとの社にまゐり仰きみてなかしをしのふ老松のかけ

鈴鹿郡　亀山町　山崎重樹

霜雪はいくたひおけと色かへぬみさり久しき神垣の松

度會郡　嶋津村　柳生勘兵衛

としとともにうつりゆく世をいかなれは松は老ても色はかはらし

南牟婁郡　鵜殿村　矢澤金秋

しろあとの松ふく風も五十年のむかしをしのひてこゑやたつらむ

桑名郡桑名町從六位勳五等　松浦正重

うふすなの杜の松か枝神さひて昔なからの色そまさける

志摩郡甲賀村神職勳七等　松村松太郎

百千年變らぬ松の操をはいく萬代こかたりつくかね

桑名郡桑名町裁判所書記　松岡平五郎

年ふりしあふきの城の老松にしろせしきみをあふき社すれ

桑名郡桑名町　松本專彌

いつまてもみさりかはらぬ老松はいかに久しき年や經にけむ

同　松本義治郎

松を吹く風のおとにも思ふかなき武士の魂やとゝもるとゝ

河藝郡河曲村　松林傳三郎

寄なみに老ゆくかけはみなからも千世をたのみに志賀のうら松

東京小石川區大塚上町　松平稻吉

露しもの後の操そいちしるきまた十かへりのはな咲けや松

愛知縣立第五中學校　馬月吉孝

ますらをの昔をしのひ色こくも彌榮え行くまつの緑葉

桑名郡桑名町　松平此花

霜雪のうきにあふこもときはなるまつのみさをはかへしさを思ふ

同　松浦てつ

宮居もる松はむかしのすかたにて神さひたてる色そたふとき

同　町田清子

そひへたつ松よりかたく仰くかなこはにつきせぬ神のいさをし

同　松原よし子

いくとせをふれこも松はふかみとり神のこころとあふきまつらむ

東京市小石川區大塚上町　松平寛子

かの松のことはにみさをの正しきは武士の伴にあにし色かも

三重縣技師正六位勳六等　藤枝俊信

折れてこそあらはれにけれ吹き渡るかせになひかぬ松のみさをは

度會郡小川郷村小川鄉神社社掌　藤本龜吉

しけり生ふ松の若葉のうすみとり昨日の花の色にまされり

桑名郡桑名町二川佳豐

國のため身をはすてにしますらをのほまれは高し松風の音

同　不破造酒三郎

ときはなる齋庭の松の色ふかくいよよ尊く仰く今日かな

鈴鹿郡亀山町藤田春文

ときはなる松のみとりと諸ともに神のいさをは千代に八千代に

河芸郡玉垣村古川新五郎

常盤なる松の老木に身をよせてしぬびまつらむ過きし昔を

東京市小石川區白山御殿町　藤本琴

汐かせに吹ならされしなれ松のかたき根さしをこころさもかな

桑名郡桑名町從五位勳四等　小寺鉎次郎

千代かけてかはらぬ松のみさををはひともこころに忘れずもかな

志摩郡磯部村村社
磯部神社社掌勳七等　小林丑之助

松に吹く風こそたゆれ大丈夫のたてし功績は千代もくちせし

津市辨財町村社市杵嶋姫神社社掌　小林豊

大君のめくみあまねき大御代は松のいろにもあらはれにけり

桑名郡桑名町　小河内彌兵衛

千代經へき松の齢ともろともに君の功を語りつたへむ

同　小林次郎作

常盤なる松のみどりになき人のみさをも深くあらはれにけり

桑名郡深谷村　近藤金三郎

いさましきみさをも色にみゆる哉むかしの城にのこる松原

同　木曾岬村　近藤驀道

御社にしける老松今日はしも昔をしのふよすかなりけり

飯南郡松江村　糀谷直藏

神垣の松の千とせの末かけてかくはしき名やつきせさるらむ

志摩郡神嶋村　強力幸策

世のさまはうつりかはれと武夫のいさほしまもる松は八千代に

尾張國愛知郡呼續町　近藤美

いつみてもみとりかはらぬ山松の操をたのか心ともかな

三河國幡豆郡横須賀村　小松金三郎

年年にみとりそひゆく老松のちよよろつ代もさかえてしかな

桑名郡桑名町　小寺のふ子

ほし月のうつれはかはる世の中に千代のいろます松そゆかしき

北牟婁郡尾鷲町
私立北牟婁女子手藝學校長　駒木根りう

何人かたふごはさらむ吹くかせになひかて折れし松のみさをを

河藝郡白子町正六位勳五等功五級　江上新五郎

十返りのはなさく時そまたれける世に老松のみさを守る身は

安濃郡藤水村村社加良比乃神社社掌　寺内房吉

神さひし杜の老松いく千年いろもかはらて榮ゆくらむ

縣社鎮國守國神社社掌從七位勳八等　阿部清隆

年ふれといつもなからの若緑人もこころを松としてかな

桑名郡桑名町　安藤甲子五郎

千歳へし常盤の松の下影によるもおもなしはかなきの身は

桑名郡大山田村　阿部傳

五十年をふりし昔も今もなほさかゆく末をまつの下かけ

同　阿部止

雪にたへ霜をしのきて老ぬれとまつのすかたは若みとりなり

阿山郡新居村　新居一郎

嵐爾母雪爾母耐閉天色加閉奴松乃美登利曾阿良波禮爾計流

桑名郡桑名町　有馬連

大前の松の雫に袖ぬれてありしむかしを忍ふけふかな

同　味岡かつ

老松のかけなつかしくしのふかないさをもしるきけふのみまつり

東京市神田區東紅梅町　安藤秀

風雪にたへし老まつかへりみていにしへしのふ人もありけり

東京府下澁谷町下澁谷海軍少將　澤良渙

常盤なる松のみとりは五十とせのむかしもいまもかはらぬものを

愛知縣名古屋市東區車道東町正八位　佐藤半之丞

とほつおやの植にし庭の老松は世のあら風を幾とせや經む

飯南郡機殿村勳七等　澤村好三郎

國の爲めたてしいさをはまつ風のおとの高くも世にきこゆけり

鈴鹿郡龜山町　佐野正秀

とき盤なる千年の松の長へに守れ御國のさかゆ行へく

河藝郡白子町　坂倉廣生

松の葉のたちてくちてもそのかみのあらしにたてしはことはのこれり

東京市麻布區東鳥居坂町　佐治爲善

君か爲身をはすてにし武士のみさをはまつと共につきせし

東京市芝區神明町　笹村鐵熊

風あらき荒磯の崎に生る松のつよき根さしを心ともかな

同　本郷區西片町　齋藤恒

木のもとにやすらひをれはいにしへをかたるに似たる松風のこゑ

東京府豐多摩郡杉並村陸軍歩兵大佐　菊野景衛

天地と共に傳へむことのはをあふけは千代の松はものかは

安濃郡安東村村社石積神社社掌　木平重四郎

幾千世のちかひもかたき石積の神の御庭におふる松かゆ

桑名郡大山田村　鬼島貞吉

しろあとの松のときはを心にて神につかへむ萬代までも

同　桑名町　菊地覺一

花紅葉うつろひ易き世の中に松のみさをはゆかしかりけり

同　木原朔次郎

幾千代もみとりの色はかはらなむなきたま祭る御社の松

宇治山田市古市町　北尾豊八

おほかたの松は千歳をかきれとゆくちせぬものはいさをなるらむ

志摩郡御座村　喜多幸親

城山のみきはに立ちし石ふみの高きこころやまつ風のおと

桑名郡桑名町　久徳千代

年日ことときはの色のまさるなり神のいかきに立てる老松

東京市外大久保百人町　岸本勝子

ちとせまてたちて榮ゆる大まつはいくことのはをかたりつくらむ

同　岸本ふみ

とこしへにかたりいひつきことのはをのこす御前のまつはみたから

津市岩田出口町　湯浅さく

ますらをか心のまこと千代かけてかはらぬ松の色にくらべむ

東京市麻布區宮下町　目黒千代

うらかせに枝はたわみても岩まつのかたき根さしにならふへきかな

兵庫縣明石町從五位勳五等　三輪信一郎

なき人をしのふむかしの物かたりごもにかたらむ夜半の松風

神宮神部署京都支署長正七位　篠田時化雄

新聞をみるたひことに思ふかなまつのみさをを知らぬ世の人

桑名郡木曾岬村從七位勳六等功五級　白木弓弦

年をへしまつの雫の苔むしろふかきおもひのまさりこそすれ

朝鮮京城從七位勳八等　新貝鐐太

波あらふ沖のいはほの一つ松ねさす心はうこくへしやは

志摩郡御座村村社御座神社社掌　柴原精一

高砂の尾の上にたてる老松の高き心をこころとゆかな

桑名郡桑名町淨土寺住職少僧正　下村覩隆

常盤なる松のかたきも白妙のゆきのはたにはをれやすき哉

桑名郡桑名町志村源伍

ときはなる松のみさをにならはまし世におくれたるわか身なれとも

鈴鹿郡亀山町下村好古

たままつりけふのかたみに松をうゑて千代にたたへむ神のみかけを

安濃郡役所新家元郎

千早ふる神代の昔かたるらむかみちの山の松風の音

東京市神田區多町下村關路

君のため常盤の松をためしにてみをすてにけむ人のかなしさ

東京府豐多摩郡中野町清水澁

いろかへぬ松の操をこころにてあたにたふれし人をしそおもふ

桑名郡桑名町篠田とみゑ

枝たれし御垣の松に武士の五十年の昔しのはれにけり

飯南郡松阪町島岡定

吹風にたふれしまつはをしけれこみさをは千代に猶殘りけり

同島岡なか

のちの世にみさをはたかく殘れさもたふれし松のをしくもあるかな

東京市牛込區矢來町下瀬信子

益良雄かたかきみさをは神垣のまつのちとせにたくへてをみむ

東京府下西大久保篠田敬子

いにしへを忍ふこころをなくさめぬものみのまつのいまものこりて

度會郡穗原村村社穗原神社社掌東圓助

みけ殿のけふり鬱く松か枝に朝日の影のまはゆかり鳬

桑名郡桑名町平野勘六

もののふのいさををかたる心地して昔ゆかしき御城の松かな

[illegible]鈴鹿郡亀山町平岩銳藏

直垂に袖ふりかへす武士の昔わすれぬ松のひこもと

[illegible]東京市四谷區荒木町平塚雎鳩

うつりゆくよにもならはすかみなからあせぬはまつのみどりなりけり

[illegible]東京京橋區月島東河岸通平野忠俊

けたかさをきそひし人はあらすして思出おほき松のさかゆる

[illegible]桑名郡桑名町平野きむ

大御城の松のときはの色ふかくさかゆく御代にあふそうれしき

[illegible]桑名郡桑名町平野靜

神垣に木たかき松は君の爲つくしし人のすかたなるらむ

[illegible]

同　久松芳子

山松の常盤の色をもののふのみさををかへぬすかたとやみむ

員辨郡石榑村諸岡梅次郎

はりま山松の木かけにすむみには世のうきことも聞はさるらむ

東京市赤坂區檜町森千代壽

年を經て人の名もまた常盤なる松の操もあらはれにけり

一志郡天白村瀬古惣十郎

霜雪を凌きて千代にいろかへぬまつをこころのはゝみとやせむ

度會郡宿田曾村八柱神社社掌鈴木秀玉

益良雄のほまれはつきし幾千代も常盤の松とよはひくらへて

[illegible]神奈川縣横須賀町[illegible]谷鐵郎

なにことゝもゆめかとかはる世の中にむかしなからの松そめてたき

阿山郡上野町杉井須磨子

とことはにしけれる松の下影にむかしをしのぶけふの御祭

和歌

社頭郭公

桑名郡桑名町勤八等　石原忠治

やひら手の音におちてか一聲をあとに殘してゆくほとときす

桑名町　石原爲量

八平手のたえま一聲ほとときす神にささくる初音なるらむ

同　伊藤紀三郎

ほとときす忌垣のうへの一聲は神に手向の初音なるらむ

同　岩尾惇忠

五十こせのみたままつりをとふらひてなくかいかきの山ほとときす

同　入澤源藏

魂まつる御社ちかくほととぎすなく一聲はぬさごこそ聞け

同　益生村市岡松次郎

ほととぎす一聲ききし嬉しさにいやさりかたし神のみまへを

同　桑名町井上鍵次郎

さつき花さくやみかきのほととぎす神のこころの色になくらむ

同　深谷村五十嵐良子

ます神のみたまこふらふ聲ならむひろ前近くなくほととぎす

員辨郡稻部村鄉社猪名部神社社司　石垣靜雄

亡きたまのこゑかあらぬかみやしろのちきをかすめて鳴くほととぎす

員辨郡大泉村伊藤克己

五百枝さす榊のろへやほととぎすかみに手向る心なるらむ

同　十社村伊原久一

うふすなの神の宮居の杉木立みとゐしくらく郭公鳴く

鈴鹿郡亀山町石川直記

御社のけふのまつりに一聲を手向けてすくるほととぎすかな

宇治山田市浦口町乾平七

すめ神もきこしめすらむほととぎすまつりのにはのそらになくなり

同　河崎町井阪綾子

小夜ふけて靜けきみやの木かくれに一聲高きほととぎすかな

飯南郡櫛田村村長勳八等　飯田市藏

神さふる杉のい垣に千代かけて一聲高く郭公なく

志摩郡長岡村神職勳八等　家田九兵衛

ほととぎすこゝ神垣の近くとやはねやすめてそ初音捧くる

志摩郡長岡村　家田ふさ子

ほととぎすみやま若はのかけになき神もあはれときこしめすらむ

南牟婁郡相野谷村　井之元伊左衛門

さつきはれいかきのすきのほととぎすかみもめてつつきこしめすらむ

兵庫縣明石町陸軍少將　今橋知勝

廣前に額つき居れは神垣のすき生のうれに鳴ほととぎす

愛知縣幅豆郡一色村　池田芳三郎

餘所よりも神のみそのの時鳥なく音はあやにたふとかりけり

同　井川隆逸

かみかきの杉のこたちに聲たかくよなよなきなく山ほととぎす

桑名郡城南村　伴又一

千早ふる神のみまへをほとときすなきてすきゆくこゑのさやけさ

員辨郡治田村　服部義夫

ありあけの月かけのこる産土の森に一こゑ鳴く時鳥

同　十社村　林李兵衛

ほとときす山よりいでゝ初こゑを神も嬉しときこしめすらむ

同　林直也

千早振神のみたまか御社にたゝ一聲の山ほとときす

同　治田村　服部春江

産土の森に一こゑ郭公初音もらしぬあけほのそら

同　十社村　林貞都子

明渡る神の社に一こゑを手向てすくる時鳥かな

四日市市下新町正七位勳六等　伴政埴

たままつるみやしろちかく聞なり山ほとときすこゑもくもりて

鈴鹿郡亀山町　服部和平

おきまつる神もや聲をめてつらむいかきのまつになくほとときす

同郡久居町野邊野神社社掌　橋野文三郎

しとしとふる五月雨にうふすなの杜をかすめてほとときすなく

宇治山田市中之町　本清

いそのかみ布留の社の五月雨になくねさひしきほとときすかな

東京麹町二番町陸軍少將從四位勳三等　林錬作

神垣の杜のあたりををちかへり鳴やおまへの山時鳥

東京本郷丸山新町　萩谷勇吉

河口のきよき渚にいつきます神のひろまへ鳴ほとときす

愛知縣一名古屋矢場町　羽塚啓明

廣前にたちをろかめはほとときすありしむかしをしのひねになく

桑名郡多度村　西田喜兵衛

神山のさか木葉かくれしのひ音にゆうかけてしもなくほとときす

鈴鹿郡亀山町　西本松之輔

きこしめせ神の御前に一聲を棒けてすきし山時鳥

同　西條忠止

詣て來る人に告るらむ時鳥いかきの松に聲をもらせる

河藝郡豊津村　丹羽英太郎

祭たる神のみたまやこもるらむみかきのうちになくほとときす

度會郡有田村　西田熊藏

ほとときすたれをしへてか御祭の庭にあはれをそへてなくなり

桑名郡桑名町　北條きやう子

廣まへの清きさか木にみをよせてさやかにききし山ほとときす

桑名郡桑名町北條かめ子

廣前にひれふすままに時鳥一聲聞て昔をそおもふ

飯南郡柳田村堀六右衛門

忠魂を吊ふ庭を御社のそらを横きり鳴く郭公

武藏國中野町陸軍少將從四位勳三等本庄道三

繁み立てる杉生の奥のみやしろのおまへを過きて鳴くほとときす

東京府豐多摩郡雜谷町本多晋

いさましく神もきこさむ益良雄のいのちかけてこなくほとときす

東京芝西久保廣町北條敬馬

そのかみをしのひつつあれはみ社の青葉かすめてなくほとときす

河藝郡上野村勳八等別所光治

詣れ婆をりからなのる郭公かみのみこゑのとこちこそすれ

桑名郡桑名町豐田宣

ぬかつきて昔しのへはほときすひとこゑたかしふるの神杉

阿山郡上野町富山惟稽

神山の森の梢にしのひ音をまたも聞とやなくほとときす

桑名郡桑名町正八位勳八等沼田直智

大神のみたま祭のをりしもあれ榊葉かくれ時鳥鳴く

桑名郡桑名町奥國太郎

なき人のその世の聲や通ふらむ神のみそのに鳴く郭公

同大關龍雄

郭公社の杜に遊ひきて一こゑ高く天らになくらむ

同大橋すへ子

足引の山ほとときすみやしろのまつりのにはにふりいてて鳴

員辨郡治田村勳七等　太田源太郎

ほととぎす一聲なきてすきにけりひるなほくらきうふすなの森

同　勳八等　岡田松之助

神垣のみあかしうすくほのほのとあけゆく空になく郭公

同　治田村　岡田倉太郎

靈祭る神の社に初音をはたむけてすくる郭公かな

同　太田絹枝

うふすなの神に詣てて此あさけ初ほとときすはからすゐきく

安濃郡神戸村村社神館神社掌　岡正雄

廣前にたむくるぬさと一聲を啼てすきゆく山ほとときす

度會郡田丸町從七位勳五等　大川親直

そのかみをなれもしのふか御社のちきの上高くなくほとときす

度會郡四郷村小川地東

ほとときす雲ゐはるかに鳴きぬめり千木より高く聲の聞こゆる

宇治山田市河崎　奥田莊吉

神垣は葉越の月もさやかにて木立の空に啼ほとときす

同　奥田さき子

神垣もさやかに見ゆて照る月になほしのひ音の郭公かな

名賀郡種生村村社種生神社社掌　小川秀英

國守る宮ゐのそらにまつ初音つけてすき行く郭公かな

東京府代代幡町陸軍工兵大佐　大谷深造

千早ふる神のみ前にぬかつきてひこ聲きさぬ山ほとときす

愛知縣立第五中學校教諭從七位　大林德太郎

益荒男かありし昔をとふらへはたにまに咽ふ松風の音

東京市牛込横寺町　太田直樹

やひら手の音にもなれて神垣の松のこぬれになくほとゝぎす

同　麻布飯倉片町　岡三保

神垣にみたままつらす折も折も鳴わたりけり山ほとゝぎす

愛知縣愛知郡御器所村　岡田繁

ひと聲をささけてゆくかほとゝぎすめくみあつたの神の御前に

横濱市南大田町　小野寺みさを子

神さひし社のあたりかすかにもしのひなくらし山郭公

桑名郡桑名町　渡部嘉藏

たま祭る社のあたりゆきかへりこゝろありけになくほとゝぎす

同　渡部さた子

たま祭る涙の雨かさみたれのふりいでてなく山ほとゝぎす

渡部ふみ子

たちはなの花の香高き神垣にけふもきてなく山ほとゝぎす

安濃郡新町村社國魂神社社掌　渡邊顯次郎

郭公あかつきかけてなくこゑを神もめくゝとゝきこしめすらむ

多氣郡齋宮村　渡邊勝藏

軍人をまつるやしろの夕やみになくほとゝぎすもの思はする

志摩郡鳥羽町郷社多賀神社社司　渡邊惣

はるはるとやしろの杜をとめくれは一聲なのる山時鳥

東京芝西久保櫻川町正八位　和田綱紀

けふまつる神のこゝろを悟りてやあまたちになく時鳥かな

愛知縣立第五中學校教諭　渡邊興衛

うちしめる青葉のそよく夕まくれ雲かくれにそほとゝぎすなく

桑名郡桑名町正七位勳六等　高山虎一

うふすなのもりの梢をほとゝぎすはつねたむけて鳴わたるらむ

桑名郡桑名町　貝塚みつ子

みやしろの若葉にやどる郭公まつ一聲は神にたむけよ

桑名郡梅村勳八等　金森梅太郎

朝またきぬさを捧くる御社の森をかすめて郭公なく

長島村　金森宗温

ほとゝぎすたたひと聲をもらしけりやしろの杜のしける梢に

大山田村　加藤みつ子

やすらけくしつけき宮のみつ垣にはつねをもらす郭公かな

三重郡下野村　加藤卯之助

動きなき國をしつめの御社に今朝もきなくかやま郭公

河藝郡上野村　笠井理一

ねかひこと神にかけてことひろまへにわれをよふらむやまほとゝぎす

河藝郡白子町　梶口德次郎

つきかけはもりのこのまにかたふきてち木の上高くなくほとゝぎす

同　上野村　川井賤子

御社の杉のほつえに月すみてひとこゑたかくなくほとゝぎす

佐世保市潮見町　蒲生まよ子

たままつる人のかへりしみ社に夕へさひしくなくほとゝぎす

津市私立勵精館長　川村寛

あ盤れともきくへかりけりほとゝぎすよことにきなく神垣の杉

一志郡雲出村　加藤和義

國まもる神のいかきにもののふのむかししのびてほとゝぎすなく

飯南郡西黒部村　川村保武

われのみか國やすかれと夜をこめて神のみ前にほとときすなく

志摩郡御座村　勝峯俊道

詣てなは若葉しけれるみ社のうち面外面に時鳥なく

南牟婁郡有井村大馬神社社掌　河野七郎

大神の大御心を慰めてはつ音高くもなくほとときす

朝鮮江原道横城從七位勳八等　兼松正人

うふすなの杜になくなりひと聲を神に手向の山ほとときす

朝鮮江原道横城　兼松きく子

なれもまたいのりありてかほとときす神のい垣の前になくらむ

桑名郡桑名町從五位勳四等　横田太一郎

彈あめのふりしむかしを音にたてなくや社のやまほとときす

大山田村從六位勳五等　館潔彦

かほとまて待とは知るや七五三の内に一聲なのる初ほとときす

桑名町判事從六位勳六等　高松範重

たま祭る社のほとり過きかてに山ほとときす忍ひ音になく

桑名町正八位　横瀬包直

ほとときす月に殘してゆく聲も今宵はわきてかなしかりけり

桑名町　高橋由次郎

郭公聲のみ月に殘しおきて過にしあとそかなしかりける

同　高井善成

いさをあるむかしをいまにしのはせてなくか宮居の山ほとときす

同　竹内求太郎

そのむかし矢叫の音そしのはるるやしろの杜に鳴ほとときす

桑名郡桑名町　高島くら子

血になきし山郭公今もなほまつりの庭の花そ染めける

河藝郡上野村　高橋義藏

有明の月にこゑあるここちして神のみにはになくほとときす

同　高橋啓子

廣前にまうててあふく夕月のかけをかすめてなくほとときす

阿山郡丸柱村諏訪神社社掌　田伏小馬男

たふとけになくか神路の郭公高倉山ををちかへりつつ

志摩郡鳥羽町堅神神社社掌　田中英太郎

みあらかに一聲あくる郭公宇良介まつらむ心なるかも

東京牛込喜久井町　高木貞作

詣て來しわれに一聲時鳥きかして行くも神のみ惠

同　高木貞一

廣前にぬかつきをれは時鳥一聲なきぬたむけ顔にも

同　高木勢喜

み社のみ前かしこくをろかめは折しも名のりゆく時鳥

同　高木篤子

ひろまへの杉の木の間ををちかへりしししまやふりて鳴くほとときす

駿州清水港　高原徹也

み社のもりの梢をさりかてにしのひ音もらす山ほとときす

四日市濱一色　津田よし江子

何となくこころもすめる曉にみやしろちかくなくほとときす

東京市外中野町陸軍少將　鶴見數馬

けふまつる神にまうててゆくりなくきくもゆかしき山ほとときす

東京本郷西片町　津田壽一

ほのほのと御前の梢あけそめて幣殿近く啼くほとときす

同　津田夫佐

おほまへに茂るはま松とよもしてなくほとときすこゑそさやけき

四日市縣社諏訪神社社司　生川鐵忠

心あらはひと聲なのれほとときすみかとまもりし神のみ前に

宇治山田市本町　永岡熊夫

みやしろの杉のむら立小夜ふけて一聲高く郭公鳴く

度會郡中川村　中西重藏

御社の杜のしけみに郭公初音さやかに聲のみきこゆ

南牟婁郡上川村　中尾松珀

こそのなつなきてわかれしほとときす今年もきさしもりの木かけに

東京神田神保町　中村德重郎

その上を語らひ居れは廣前の杉の老木にほとときすなく

東京府豐多摩郡杉並村　中野廣

汝もまた心あれはかほとときすひろまへちかく鳴きわたるなり

神奈川縣金澤村　永嶋須磨

千早振る神のみ前に眞榊木を手向る折しも鳴ほとときす

同　永嶋八百子

みたま祭るたまへかしこみ時鳥鳴く一聲や手向なるらむ

東京芝公園　中西ます子

夕月のかけほのくらきうふすなのもりの杉生になくほとときす

桑名郡桑名町　楢村茂子

はつこゑをたむけむとてかみやしろの千木の上たかくなくほとときす

桑名郡城南村中澤つね子

ぬかつきて昔をしのぶ神まへに心ありけになく時鳥

津市西堀端直郎長子

さつき山高き宮居の木かくれになにしのへとやほとときすなく

廣嶋市國泰寺町楢村千代子

たまつるゆ庭の杜に夜をこめて聲あはれにもなくほとときす

宇治山田市本町永岡まさ子

郭公こゑは宮居の千木高くうれしと神もきこしめ須良武

桑名郡大山田村上得宗

このみやの神居の年をたつぬればほのかになのるほつほとときす

同村上あい子

家つとにせむよしもかな神垣のいまはさひしく鳴ほとときす

度會郡神社町村社箕曲神社社掌　向井淳

ちはや布る神のいかきを郭公何つけむとや朝な朝な鳴く

同　島津村神職　植村寅吉

神垣にしけれる杉の梢よりたかくも名のる時鳥かな

阿山郡上野町　上野友太郎

いそとせのむかしをなれも偲ふらむゆにはに高く啼郭公

北牟婁郡尾鷲町　上村良松

廣前に馴れぬと見えて郭公高き梢に夜半の一聲

南牟婁郡神川村瀧神社社掌　上田直見

ゆふかけてい垣に來鳴ほとときす神も嬉しと聞食すらむ

東京小石川指ヶ谷町大教正　内田駒太郎

千早振神の御前の杉村をとよもしなくか山ほとときす

同　牛込喜久井町　内海　鈇

もののふのたまの名殘か五十とせのけふのまつりになくほとときす

桑名郡桑名町　法山しけ子

もののふのたまゝまつりする神垣に聲もをしますなくほとときす

同　深谷村　野田小三郎

五かへりかへりみてなけ郭公國鎭むてふ神の垣根に

安濃郡片田村村社八乳合神社社掌　野田貞次郎

心あらは聲もをしますほとときす神路の山の名にめててなけ

安濃郡片田村　野田產石

をちかへり啼もめつらしほとときす聲もさやけき月讀のみや

阿山郡新居村　野依清次郎

神垣の森の木立のかなたよりさやかに名のる山時鳥

東京牛込藥王寺前町　乘竹路久子

五十年の昔しのへはみ社の杜の梢にほとときすなく

桑名郡桑名町正八位勳八等　久我清民

ほとときすゆふしてちかくなきつるは神にささくる初音なるらむ

同　桑名町　久我千代子

ねきことのあるかとはかり時鳥宮居の杜のおくになくなり

同　栗山ふみ子

夕月夜神の御前にぬかつけはむかしのひて時鳥なく

三重郡朝日村　栗田わに

魂まつるゆ庭の杜にほとときすなき武士をしのひてかなく

飯南郡松坂町從六位勳六等　栗田覺治

御社の森の梢にほとときすひとこゑ高く鳴くそたふとき

飯南郡松坂町山室山神社社掌　久世安重

御神樂のふえのたえまになくこゑもしらべことのふほとときすかな

東京府豊多摩郡代々幡町陸軍中將從四位勲三等功四級　久能司

神垣の杉生に高くほとときすたれにきけとや鳴きわたるらむ

朝鮮元山府　久我清廣

ほとときす神にたむけしひと聲は千木の上たかくすみ渡るなり

同　久我嘉代子

しのひねを神にささけて廣前になにいのるらむ山ほとときす

桑名郡大山田村　山本源太

神まつる人の心もなくきめてひろ前ちかくなくほとときす

鈴鹿郡亀山町　山崎重樹

すきさりしむかししのへと子規みやゐのまつにをちかへりなく

度會郡島津村長　柳生勘兵衛

かむさひし宮居の奥の木の間よりもれ出つる月に鳴く時鳥

南牟婁郡鵜殿村　矢澤金秋

なき父のみたまのまへにぬかつけるこころあはれとなくほとときす

桑名郡桑名町從六位勲五等　松浦正重

御社のちきも青葉にかくろひてひるなほなのる郭公かな

同　裁判所書記　松岡平五郎

一こゑの神神しさよほとときすやしろの杜のあけほのそら

同　桑名町　松本義治郎

ほとときす鳴きぬと見れは神垣の松に月のみすみわたりけり

同　松本專彌

み社の杜に姿はかくるれと聲にしらるるほとときす哉

同　　松平此花

かをとめてむかししのぶかほとときす橘かをる神のみにはに

同　　松浦てつ子

み社の森の梢に聲高くぬさささけて鳴ほとときす

同　　松原よし子

みやしろにまうててをれは郭公雨ふり出て鳴きさけふなり

同　　町田清子

ぬかつきていさををしたふ神垣になれもしのふか山ほとときす

河藝郡河曲村　松林傳三郎

はからすも聞て嬉しき時鳥此みやしろに朝まうてして

宇治山田市宮後町神宮禰宜正七位　松木時彦

たままつる玉垣ちかく年ことにはつねたむくるほととぎすかな

同　　宮後町　松木安子

しけりあふ青葉のもりのほととぎす初音たむけよ神の御まへに

同　　松木幾久子

かきくもる道を心の神まつりしのひねになく時のこりかな

志摩郡甲賀村神職勤七等　松村松太郎

神垣の青葉小暗き森かけに神に手向て郭公なく

東京小石川大塚上町　松平寛子

御神樂の聲にましりて廣前ををちかへり鳴くほととぎす哉

桑名郡桑名町　二川佳豊

武夫の露と消えにしあと訪へは城のほこらにほとときすなく

同　　不破造酒三郎

いにしへをしのひねもらす郭公きくもゆかしき神垣の森

鈴鹿郡亀山町　藤田春文

うの花のぬさと見にける神垣に初音たむけて時鳥なく

河藝郡玉垣村　古川新五郎

郭公鳴くや其方眺むれはたた眞榊にしてそゆるける

津市玉置町正七位勲六等　藤枝俊信

時鳥なきてすきけりますらをのみたまいつげるみ社のまへ

度會郡小川郷村小川郷神社社掌　藤本亀吉

けにそれとすかたわかねと鎮國の杜にしはなくほとときすかな

東京小石川白山御殿町　藤本琴子

みやしろのおまへの濱のはままつのこすゑはるかになくほとときす

桑名郡桑名町從五位勲四等　小寺鉦次郎

たままつる社の杜をすきかてに忍ひなくらし山ほとときす

桑名郡桑名町　小河内彌兵衛

世の憂さを空にも知るや靈祭る宮居の森に鳴く郭公

深谷村　近藤金三郎

ほとときす神垣近く聲すなりむかししのひてねにや鳴くらむ

木曾岬村　近藤藤道

神まもる森の何所やかすかにもこゑのみきこゆ山ほとときす

桑名町　小林次郎作

榊葉のみとり茂れる神垣にむかしをしのふやまほとときす

小寺のふ子

五十年のみたまをまつる廣前になく聲たかし初ほとときす

木曾岬村　近藤きん子

花ちりてわか葉しけれる御社のみつ垣まもる山ほとときす

河藝郡上野村教員　後藤たかへ子

柏手のたとにひゞこゑなきすてていかきの松をたつほとゝきす

津市下辨財町村社市杵島姫神社社掌　小森豐

御祭りのすみにしのちの庭に來てはつねたむくる郭公かな

飯南郡松江村　糀谷直藏

五十年のむかしやしのふ守國の神の社に鳴くほとゝきす

志摩郡磯部村社磯部神社社掌勳七等　小森丑之助

御社の木のまにゐるる月影にさやけくゐなく郭公かな

同　神島村村社八代神社社掌　强力安之丞

深山てのはつひと聲を時鳥むらさめかかる產土のゐり

北牟婁郡尾鷲町私立北牟婁手藝學校長　駒木根りう子

時鳥なきすきにけりますらをのみたまをなれもなくさめむこや

三河國幡豆郡横須賀村　小松金三郎

神の火のはつかにのこるあかつきのやみをやふりてほとゝきすなく

尾張國愛知郡呼續村　近藤美

大神をなくさめむこやほとゝきすひろまへちかく鳴きていにけむ

河藝郡白子町正六位勳五等功五級　江上新五郎

ほとゝきす千木の上高くなき過きていよよしつけしかみのおほまへ

東京芝櫻田鍛治町　榎本とし子

はふり子か神の宮ゐにゐるすすのふりはへて啼ほとゝきすかな

安濃郡藤水村村社加良比乃神社社掌　寺内房吉

大神に初音ささけてほとゝきす雲ゐはるかに鳴わたるなり

宇治山田市本町　出口義治

あめそそくもりのともし火かけふけて神かきちかくほとゝきすなく

縣社鎮國守國神社社掌從七位勳八等　阿部清隆

御垣守る我にはゆるせ時鳥神に手むけむなれの初聲

桑名郡桑名町　秋山麟

かりこもの亂れし世より今も猶たた一筋に國のため君の爲にと家も身も思ひすてしものゝふのかさしとはする山さ久良花と散にしそのたまを招き祭れる神垣の若はのかけに一聲をしのひかねてやほとときすもらすもかなし五十年の昔をしのふもろ人のこころも同しあはれさを名のり初にし聲きけはあはれそ深き夏木立みとりしたたる下露や思ひあまれる涙なるらむ

神垣の若葉のかけに五十年の昔をしのふ山郭公

桑名郡桑名町　安藤甲子五郎

ちはやふる神路の山をたちいでて雲ゐはるかになくほとときす

同　大山田村　阿部傳

千木高きみやゐのもりに郭公すかすかしくも初音をそ聞く

同　阿部止

千早振神にささくるぬさとしていかきにちかく鳴くほとときす

同　桑名町　有馬連

武夫のみたまとふらふ廣前にひと聲もらすほとときす哉

同　味岡かつ子

みあかしも赤くかかやく大前にひれふしてきく初ほとときす

阿山郡新居村　新居一郎

産土乃森乃梢遠聲高久鳴渡利計留山郭公

東京神田東紅梅町　安藤秀子

幣殿の御前かしこくひと聲をなのりてすくるやまほとときす

桑名郡　桑名郡視學　澤　雄

よの人のしらぬ初音をここに來て神に手向けよ山ほとときす

鈴鹿郡　亀山町　佐野正秀

いそこせのむかし偲へは郭公涙やそそく神のい垣に

河藝郡　白子町　坂倉廣麿

今日こそはあたにはきかしほとときすかみにたむけのこゑとおもへは

河藝郡　白子町　坂倉廣生

たきまつるみたまのこゑときくはかりもりのやしろになくほとときす

飯南郡　機殿村勅七等　澤村好三郎

ほとときすはつねをぬさと手向らむくにをまもりの神のみまへに

東京府澁谷町下澁谷從四位　澤　良　渙

魂まつるやしろの杜のほとときすちをはく計音にそなくなる

東京本郷西片町文學博士　佐々木信綱

五十年の昔の夢をしのひをれはほとときすなく森の木立に

名古屋市車道東町正八位　佐藤牟之丞

過し世を偲へこやなくほとときすこゑすみわたる月讀の宮

東京麻布東鳥居阪町　佐治爲善

身をすてし昔しのふか神垣にひと聲高くなく郭公

東京芝神明町笹村鐵熊

岩はしる神のみたらし音ふけてこころすむ夜を鳴ほとときす

東京本郷西片町　佐々木弘子

心なき鳥もむかしをしのふらむほとときすなくみやしろの杜

同　齊藤恒子

大前にぬかつきをれは杉村のこのまよりしなくほとときす

桑名郡桑名町　木原朔次郎

天かけるものと思ひし郭公神の御籬に八こゑ八千聲

同　菊地覺一

風薫る若葉の杜の神垣にむかししのふかなく郭公

同　大山田村　鬼嶋貞吉

いそとせのむかししのひて城あごの社になくか山ほとときす

桑名郡桑名町　久德千代子

ほとときすけふの祭りのぬさにこて一こゑ高く鳴きてこそ行け

安濃郡安東村村社石積神社社掌　木平重四郎

ちはやふる神のい垣のさかき葉にゆふかけてなく山ほとときす

宇治山田市古市町　北尾豊八

瑞枝さす忌垣の木木にゆふかけてなくか手向の山ほとときす

東京府豊多摩郡杉並村陸軍歩兵大佐　菊野景術

み社ををちかへりなく郭公むかしをしのふ聲ここそきけ

東京市外大久保百人町　岸本かつ子

とことはにいつかす神の廣まへを名のりて過る山ほとときす

同　岸本ふみ子

みたらしにかけをうつしてほとときすぬさとのちかく鳴わたるなり

津市岩田出口町　湯淺さく子

そのかみを汝もしのふか御社のもりかけさらすほとときすなく

度會郡城田村　結城吉忠

神垣にうつや平手の數よりもしけく聞ゆる時鳥かな

東京麻布宮下町　目黒千代子

うふすなの森の神すき月ふけてをちかへりなく山ほとときす

桑名郡桑名町　正八位　水野常準

かみかきのわかはにはなのあとことひてなくねしのはむやまほとときす

飯南郡機殿村村社大國玉神社社掌　溝田宗太郎

常盤木も色ますらをの御社にこそをしのひて鳴ほとときす

兵庫縣明石町從五位勳五等　三輪信一郎

すみなれし神のみ垣にけふもまた青葉かくれにほとときすなく

東京牛込喜久井町　溝口宗武

ますらをのたけき美魂をなくさむる祭濃塲になくほほとときす

桑名郡木曾岬村從七位勳六等功五級　白木弓弦

嚴かに神さひ立てるむら杉のこの間すきゆくほとときす哉

正七位　篠田時化雄

神まつるゆにはに高くほとときすはつ音たむけていつち行らむ

桑名郡桑名町少僧正　下村觀隆

武夫のみたままつりの廣前にしのひてなくか山ほとときす

同　桑名町　志村源伍

廣前の若葉かくれに郭公ひと聲高く名のりけるかな

同　篠田とみゑ子

ほとときす姿はそれと見ねねとも神の御前に今の一聲

鈴鹿郡亀山町　下村好古

はつ鰹をは神に手むけてほとときすつきのけふはさとに出らむ

安濃郡役所　新家元郎

國守る國の鎭の御神森くに安かれとほとときすなく

飯南郡松坂町　島岡定

まつ人もまた聞かなくにほとときす先つひろ前に初音たむ久る

同　　島岡なか子

初こゑを神にささげてうふすなのもりになくなり山ほとゝきす

宇治山田市中之町從七位　重野健造

ひろ前にたむけまつれよほとゝきす神もきくらむその初聲を

志摩郡御坐村村社社掌　柴原精一

みやしろの若葉かくれに子規初音もれきく今朝の嬉しさ

東京府豐多摩郡中野町　清水游

ひろまへの杉の木の間にほとゝきすもらす初音は神もめつらむ

東京神田多町下村關路

寶とゝきす神のいつかすひろまへの楠のおい木をしめて鳴なり

同　牛込矢來町下瀬信子

みやしろのちきよりたかくほとゝきすふりしむかしを鳴わたるなり

東京府西大久保篠田敬子

あかつきに神まうてして聞にけりのこれる月になくほとゝきす

朝鮮京城從七位勳八等　新貝錄太

揖斐川の波の音たかく月ふけていかきの松にほとゝきすなく

桑名郡桑名町　平野勘六

もののふの昔をしのふ神垣に涙なそへそ山ほとゝきす

同　平野きむ子

そのかみをなれもしのふか神垣のあたりはなれすなくほとゝきす

同　久松芳子

五十年のたもかけしのひ御社の青葉のそらに鳴くほとゝきす

同　平野静子

神垣に鳴くほとゝきす聲きけはむかしの事のものはれそする

鈴鹿郡鵜山町平岩鋭藏

ほととぎすむかし忘れず神垣に手むくる聲のよしありけなる

度會郡穗原村村社穗原神社社掌東圓助

みあかりに杜の若葉の影見えて神垣ちかくほとゝぎす啼く

南牟婁郡長從六位勳六等平賀正文

ちる花を吊ふ夜半の雨はれて社の空に郭公鳴く

東京四谷荒木町平塚雎鳩

みやしろのすすのねしめるあまそらにふりいでてなくやまほとゝぎす

同京橋月嶋東河岸通平野忠俊

産土の森のしたみちそのかみの人しぬひをれほとゝぎすなく

員辨郡石榑村諸岡梅次郎

大神もきこしめすらむ瑞かきのまつのこすゑになくほとゝぎす

三重郡菰野村森春人

きくひとゝもなきあかつきに初こゑをかみに手向てなくほとゝぎす

度會郡四郷村森本菊次郎

いなりやま赤のとり居もまた暗き曉かけてほとゝぎす鳴く

東京赤坂檜町森千代壽

過やらて今宵はかりは郭公神垣ふかく鳴わたるなり

一志郡天白村湘古惣十郎

夕まくれ昔を偲ふ神垣に一こゑあはれほとゝぎすなく

飯南郡波瀬村波瀬神社社掌勳七等菅谷磯次郎

屋ちやこゑなきやさけはむ杜鵑みたまをまつる御社のもり

同小學校教員菅谷磯臣

ひろまへにむかししのへはほとゝぎすなく音にむねもくもりかちなる

度會郡宿田習村八柱神社社掌　鈴木秀玉

御祭に一こゑささく郭公ゆかし心を杜にこめて

飯南郡波瀬村菅谷あい子

神森より一こゑもるるほとときすこのゐのつまは如何にきくらむ

阿山郡上野町杉井須磨子

一聲をぬさとささけて千早振神路の山に鳴ほとときす

東京小石川小日向若荷谷町
東宮殿下御學問所御用掛　杉浦重剛

ほとときす血に鳴く聲の跡みえてわか葉にうつる朱の玉閑き

五十年祭に献納の爲めよめる

東京牛込喜久井町高木貞作

いさきよく花と散にし武夫を忘れぬ世世の魂祭哉

手を折れは五十の昔かへり見て殘る我身のはつかしき哉

今更にありし昔を思出てしき偲はるるけふにもある哉

殉難志士五十年忌招魂祭述懷

東京赤坂檜町森千代壽

君かため露と消にし武士の御魂をまつるけふそうれしき

五十年のむかし思へはおくつきに降る五月雨は誰か涙かも

俳句

寄松述懷

桑名郡益生村縣社立坂神社社掌　石垣英麿

桑陽の魂松に聲あり五十年

度會郡東宮尋常小學校長　英俤　池口義致

雲しのく松より高きいさをかな

度會郡鵜倉村　蕉雨　稻田州三

夏の雲凌ぎて高し峯の松

同　槐軒　西村準治

史を語る松のみさりのいさをかな

變はる世にかはらて松の茂り哉　桑名郡桑名町正八位勳六等　千葉數太郎

魂あらは松も語らむ閑子鳥　東京市牛込喜久井町　桑山　加藤禎二郎

松の色幾世かはらぬ操哉　度會郡鵜倉村　白堂　中谷八太郎

松すすし神の燈しの洩れて猶　三重　郡朝日村　栗田仁三郎

松ふりて甲子の昔偲ひけり　度會郡鵜倉村　南渚　小林直吉

勳しの朽ちぬ城址や松の宮　同　東州　森田市之助

俳句

社頭郭公

神燈のゆらきに明けて時鳥　度會郡東宮尋常小學校長　英僊　池口義致

英靈も聞けや社頭の杜鵑　度會郡鵜倉村　蕉雨　稲田州三

產土の森に一とゝをほとゝきす　員辨郡治田村　一樂庵　服部歌狂

月落て清き社頭や時鳥　度會郡鵜倉村　吳材　服部瑞龍

度會郡鵜倉村　槐軒　西村準治

神さひし杉の木立や時鳥

桑名郡桑名町正八位勳六等　千葉數太郎

神德を仰く御空やほことき す

東京赤坂氷川町　艮玄　大木操

ひけ白き宮司のゆめやほことき す

同　牛込喜久井町　桑山　加藤禎二郎

昔しのふ鎭守の杜や時鳥

桑名郡桑名町　竹村柳甫

袖に散る松の雫やほことき す

度會郡鵜倉村　白堂　中谷八太郎

御社に願ひの外やほことき す

度會郡鵜倉村　南渚　小林直吉

月影に啼や社頭の郭公

新潟縣長岡市　芳湖　佐藤榮五郎

仰き見る碑文の上や郭公

桑名郡桑名町　松濤　志村源伍

郭公なくや忌垣の若葉かけ

度會郡鵜倉村　東洲　森田市之助

祝詞宣る聲靜かなり時鳥

殉難志士五十年招魂祭述懷

東京市赤坂區檜町　森千代壽

散る櫻見よ一點の未練なし

度會郡城田村　琴風　村井八太郎

さもにたり來たり享けませ御靈前

漢詩

弔忠魂

桑名郡桑名町　伊藤紀三郎

紫碎紅飛幾戰場、追懷人立恨更長、招魂碑上纖々月、唯有杜鵑泣血翔、

仝　岩尾惇忠

曾將一死報君恩、今日猶看義氣存、花落鳥悲春已老、綠陰深處弔忠魂、

仝　伊藤善吉

盡臣敢抗萬來君、休說官軍與賊軍、常咬菜根明道義、何驅客氣惑猶薰、

度會郡城田村　琴風　村井八太郎

さもにたり來たり享けませ御靈前

漢詩

弔忠魂

桑名郡桑名町　伊藤紀三郎

紫碎紅飛幾戰塲、追懷人立恨更長、招魂碑上纖々月、唯有杜鵑泣血翔、

仝　岩尾惇忠

曾將一死報君恩、今日猶看義氣存、花落鳥悲春已老、綠陰深處弔忠魂、

仝　伊藤善吉

盡ハ蠹ノ誤來ハ乘ノ誤

萬來君、休說官軍與賊軍、常咬菜根明道義、何驅客氣惑猶薰、

雄藩怯懦輪贏決、大義威靈向背分、天譴一時猶可忍、忽逢優詔姓名聞、

桑名郡桑名町正七位　服部速水

倚劍慨慷趨國難、力殲身殉美名殘、蘋蘋虔設招魂奠、彷彿英靈下玉壇、

員辨郡大泉村伊藤克己

可羨英名竹帛存、丈夫一死報君恩、九華城外萬松綠、祠廟儼然忠義魂、

伊賀上野岩野森之助

當年殉節悉忠臣、不見英姿五十春、豈啻如今奠蘋藻、千秋萬古祀群神、

仝　西村彌五郎

冠以賊名論豈公、維新大業見純忠、當年義魄知何處、留在天荒地老中、

靜岡稅務署長副司稅官正七位勳五等　二宮虎三郎

榮枯成敗豈須論、一死惟知酬主恩、好有鄉民感忠烈、建祠長爲祭英魂、

桑名郡桑名町　星野恭藏

勤王佐幕復何評、士事其君各守貞、層岳長流非所避、千軍萬馬笑相迎、
振威北越防强敵、皷勇奥東從遠征、回首已過年五十、落花啼鳥若爲情、

仝　鳥飼正光

揮戟從軍西復東、沙場慘憺起腥風、不知魂魄在何處、萬古名傳青史中、

東京市小石川區正六位　小山正武

裂帛聲兮裂帛聲、響從天外到桑城、忠魂今日應相慰、雪得君冤萬古明、

京都市上京區從四位勳四等　大野德孝

地軸欲摧天柱傾、電光亂射百雷轟、事就歸王不就坐、累世養得士林情、
一朝臨難豈逡巡、奮躍擬致報効誠、奮躍擬致報効誠、國恩重矣身命輕、
彼合西南剽悍鋭、我連東北剛毅精、々鋭相搏何壯烈、寧榮進死辱退生、
寧榮進死辱退生、丈夫元期身後名、彈竭振槍々折劍、碧血滿地山河腥、

攻守百戰幾勝敗、彼軍日加我寡兵、彼軍日加我寡兵、忍飢裹創猶抗爭、
勇將猛士前後斃、或護社稷爲犧牲、偉哉當年士魂潔、鑠矣千歲俠骨聲、

度會郡田丸町　從七位　勳五等　大川親直

戊辰甲子武名軒、雄氣堂々勢北藩、回首當年猶若夢、古城今日弔英魂、

桑名郡桑名町　從七位　勳八等　岡出昇

奉公事ノ誤

當年心奉又休論、戰死英名萬古存、聖世詔光君識否、幾人濺淚弔忠魂、

仝　大關龍雄

鬱然新綠古松森、悲壯奏來鼓樂音、肅々正襟拜祠下、慰神餘興衆人心、

仝　加藤顯吉

緬懷往事感無窮、復古文明國運隆、今日弔他忠烈士、靈魂長在舊城中、

桑名郡楠村勳八等　金森梅太郎

孤軍奮鬪豈辞勞、一片丹心百鍊刀、傳得桑藩義仍俠、魂留千載月輪高、

愛知縣立第五中學校教諭　加來悌介

男兒一死答君恩、說到戊辰何耐言、俠骨裏瘢羽陽曉、雄心待戰鶴城昏、
舊碑獨點殘紅色、新感空疑古血痕、五十餘年跡如夢、揮來暗淚弔幽魂、

桑名郡桑名町　從六位　勳六等　高松範重

持節殉難日、既過半百年、不留睚眥恨、睡穩故鄉天、

仝　大山田村　從六位　勳五等　館潔彦

戊辰坤軸渾昏々、日月無光狼虎奔、長薩頻期廻權數、東西互欲護帝闈、
幾千壯士多亡戰、三百諸侯盡圖存、暮雨蕭々人肅々、天公也似弔忠魂、

駿州清水港高原徹也

曉雲散盡朗一空、旭日照臨招魂宮、正遇五月二七日、祠在九華城趾中、
合祭子辰死節士、賽人如織群摩肩、演來舞樂劍弓術、烟花殷々轟半天、
神靈同鄉多相識、追懷愈深豈任情、悲風颯々卷地起、鳥雀咬々泣呑聲、

嗚呼、赤心從軍無他意、其奈未能雪宿冤、上有聖明天皇在、早晚應霑隆
洽恩、人生浮沈尋常事、世變擾々何用嘆、聊弔忠魂草詞句、拂却雙淚棒
玉壇、

桑名郡桑名町正八位　種瀨包直

錦旆西揚我獨東、一心殉國氣何雄、星霜五十神祠下、空隔幽明弔義忠、

尾張國海部郡永和村　立松英

風前一遂落花飜、宛似當年戰血痕、半夜城頭鳴咽水、子規啼斷月如魂、

桑名郡桑名町　高橋由次郎

鞠躬臣節爲君僵、磅礴忠魂永不亡、杜宇一聲春盡日、落花千點滿靈場、

仝　正八位勳六等　園部從容

雨々風々五十年、追懷往事淚潸然、故山今日招魂處、恭薦庶羞拜位前

仝　勳八等　塚本左次郎

摧身碎骨報君恩、節峻桑名唯一藩、壯烈淋漓跡如見、落花風裏弔忠魂

仝　筒井八郎

壯士今何在、高祠城郭墟、松頭鳥空語、壕外樹陰疎、蹉跌一時毀還爲萬
世譽、嗚呼鐵衣昔、討死義忠餘

四日市々諏訪神社社司　生川鐵忠

誰言生死總之天、起弔忠魂躑躅燃、千載流芳照青史、豐碑況又聳祠邊

桑名郡桑名町　村田祥太郎

神明德業耿光存、誰信兵戈抗錦旆、順逆當年遮晦霧、興亡何物瞎乾坤、
曾守輦轂標臣節、終殉奥區酬國恩、碑刻千春冤雪盡、翠松依舊護忠魂

度會郡鵜倉村　向井宏純

維忠維勇幾英雄、沐雨櫛風西又東、今日斯民太平業、當年殉國獻身功、

憶起當年國步艱、憂君趣戰爲屍還、千秋臣節照靑史、身是鴻毛義泰山、

愛知縣海部郡佐屋村　黑宮白石

甲子戊辰爭戰場、鴻毛輕死姓名香、孤邱屹峙豐碑在、來弔忠魂淚數行、

四日市々桶之町　久志本久七郎

鳳笙和處薦犧樽、知是榮光照九原、同一戰場同一死、蘋蘩共祭藎忠魂、

桑名郡大山田村　山本源太

柱石之材多化灰、戊辰回首不堪哀、殷勤守義心彌固、的歷旌忠骨忽摧、
鄉里雲深陰雨灑、北邙露重濕風催、山人追慕詠詩弔、應是英魂含笑來、

仝　桑名町　從六位勳五等　松浦正重

挺身提槊雪君冤、血染山河尸覆原、今日家鄉修祭祀、鼓箏聲裡弔忠魂、

仝　川佳豐

身後功名鬼豈知、松林寂寞鳥聲悲、英魂招得斯中在、落日荒城弔古碑、

仝　古川英太郎

花落祠門春寂寞夕陽深處弔忠魂、茫々五十年前事、東叡山房彈雨繁、

三重郡富田町　近藤杢

腥風慘雨跡茫々、抔土於今俠骨香、名節儼然懸日月、長敎正氣滿神州、

桑名郡桑名町　秋山斷

京幾雨奧越風、朝梳暮沐致厥躬、星霜己五十、雄心長不朽、劍氣宵々衝
牛斗、城古花飛萬綠繁、裂帛一聲弔忠魂

東京市麴町區　酒井莊敬

盛奠人爭賽、英雄死有榮、他鄉縱埋骨、魂上九華城、

仝　麻布區　佐治爲善

城墟殉難一神祠、遙憶當時不耐悲、伏義精兵僵戰陣、重忠壯士禦征師、

落花片々飛如雪、垂柳毿々亂似絲、來弔雄魂春又暮、聲々杜宇過天涯、

桑名郡桑名町　水谷長之助

桑名節義陳安四、折盡霜鋒入九原、獨有後生思不禁、薫風綠葉弔英魂、

仝　志村源伍

貞珉綠樹裡、纖月半空懸、祠藻幾千首、追懷五十年、昂天松節勁、啼血蜀魂憐、玉摧男兒志、威名萬古傳、

仝　平野三川

新綠陰々孟夏天、弔忠魂是牙城邊、赤心殉難英雄士、赫々美名幾萬年、

東京市赤坂區森千代壽

皆節殉難不朽名、招魂弔古九華城、三更夢覺聽松籟、追憶當年吶喊聲、

一志郡久居町森直已

紫落紅飛花已辭、低徊惆悵古祠涯、當年血雨腥風迹、芳烈空留一片碑、

一志郡米之庄村　世古元臨

辛酸沐雨又梳風、一片丹心拋我躬、今日忠魂招不得、落花香裏弔英雄、

東京市小石川區東宮御用掛　杉浦重剛

丹心誓欲報君恩、俠骨稜々枉觸藩、花落墓門人不掃、一聲杜宇弔忠魂、

五十年祭感懷

桑名郡　桑名町　伊藤紀三郎

歳月匆々春已空、花開花落意何窮、呼醒五十年前夢、腸斷悲風慘雨中、

仝　岩尾惇忠

日月匆々五十年、追懷往事思悽然、丈夫身死名無朽、杜宇聲高桑海天、

伊賀上野町　岩野森之助

憶昔戰塵濛蔽天、賢侯意氣至今傳、曾川洗盡寶刀血、秋雨春風五十年、

桑名郡桑名町　正七位　服部速水

星霜五十如流水、追想當年忠烈士、躑躅猶疑泣血紅、長看正氣照藩史、

名古屋市新榮町　西塚梅次

雄藩養士二百年、忠肝義膽堅如鐵、甲子之變何勇豪、戊辰之役何壯絶、

崎嶇轉戰奧山河、九重門前甘喋血、誓護禁闕不顧身、流離間關想苦節、
見危授命是男兒、奈何矢盡刀亦折、克事其主即忠臣、順逆於今君休說、
豐碑十丈高摩空、藩公親書勒偉烈、星移物換五十春、英名赫々長不滅、
古城儼然祀典修、階下拜趨人成列、髣髴當年烈士魂、朝陽門前櫻花潔、

伊賀上野町西村彌五郎

容易星霜五十年、英魂磅礴國威宣、餘榮枯骨諸公事、千尺豐碑名姓鐫、

桑名郡益生村堀謙太郎

名分愆歸彼一時、當年氣概是男兒、追懷今日感何耐、諸士心衷識者知、

桑名郡桑名町星野恭藏

爲賊爲官不用論、唯期一死報君恩、回頭五十年前事、何處復看彈雨痕、

仝　鳥飼正光

忠孚悃々衛宮門、秋雨一來蒙至冤、回顧情深往時事、杜鵑和籟慰神魂、

東京市小石川區正六位　小山正武

北望信嶺雪已消、勢海潮暖魚龍跳、來吊桑城興亡迹、落花寂寞奈魂銷、
憶昔創業鎭國公、養士愛民功德崇、何料子孫頻不幸、轉封越北又奧東、
中興大賢公旭峯、允文允武百代宗、痛除宿弊淸天下、士風豹變民心雍、
哲人去後幕政敝、群小跋扈紀綱替、內憂外患接踵至、雄藩競企桓文計、
果見薩長先着鞭、大擧來攻東北天、東北男兒自有骨、豈甘盲從西軍前、
喚官呼賊固虛名、其實豈容順逆評、會桑未曾抱逆意、皇天上帝眼分明、
其奈東軍統括難、連合攻守謀不完、刀折彈竭糧亦絕、國破孤城落日寒、
噫人生有限名無朽、眼前勝敗咄何有、丈夫所重唯節義、公論須期千載
後、碧血痕化五十春、忠節凜々長不泯、蘇水遙々入海處、今日吊祭招忠
魂、招魂祠對兩公祠、懷古俯仰淚雙垂、無限感慨與誰語、英靈彷彿臨在
茲、

京都市上京區從四位勳四等　大野德孝

彼憂國兮我憂國、斯心敦純無矯飾、我爲義兮彼爲義、斯志公明無隱慝、
歎息彼我同死節、一不祀兮一廟食、一不祀兮一廟食、命也由來有通塞、
丈夫心胸元磊落、幽界況還分畛域、憶共含笑談當日、英魂磅礴護皇極、
英魂磅礴護皇極、生死不渝是臣則、葵忱感孚化同胞、醞釀國民一致力、
皇威宣揚駭列强、億兆殷富漲瑞色、億兆殷富漲瑞色、顧思先憂諸士德、
春風秋雨五十年、俯仰今昔淚沾臆、懇掃蘚苔羞清酌、鳥啼花落碑默々、

東京府北豐島郡巢鴨町　小澤圭次郎

五十年前廿七齡、身爲囚客影隨形、匆々入寺春空盡、咄々籲天心不寧、
畫策中原羽書急、殉難東北戰塵腥、嗟吾今日延餘喘、遙吊忠魂涕泗零、

桑名郡桑名町　大關龍雄

君家興廢在斯辰、欲報鴻恩擲一身、義勇精忠長不盡、歷年五十祭靈神、

仝　小谷鄕

當年藩論紛鼎沸、歸趣不料誤厥身、一朝天定名分正、枯木花開恩典新、
歿後光榮堪欽仰、滿腔宿憤亦足伸、想見英靈感聖德、流形世爲忠節臣、
今維南薰解慍候、神苑松柏綠蔭勻、臨弔回首藐如夢、杜宇聲中五十春、
拜跪咫尺毛骨肅、祖公廟前陪崇禋、嗚呼幽顯雖隔境、遺烈髣髴志士神、

仝　渡部兼藏

血雨屍山幾戰塵、誠忠守節擲其身、英魂長弔扇城趾、五十年前一夢春、

東京市芝區正八位　和田綱紀

匡幕勤王推兩藩、臨難拋命答君恩、杜鵑啼血古城曉、似弔千春不滅魂、

桑名郡桑名町　加藤顯吉

弔到雄魂忠與忱、經年半百氣嚴森、整襟拜跪瑞垣裏、赫々神威輝古今、

仝　楠村勳八等　金森梅太郎

大祭招魂首夏天、儼然幣帛廟祠前、戊辰殉義今如夢、已閱星霜五十年、

桑名郡桑名町從六位勳六等　高松範重

咨嗟大厦欲傾時、一木元來不可支、湧淚寫成忠義字、當年戰果永留碑、

仝　大山田村從六位勳五等　館潔彦

鬪墻兄弟互搆兵、鶺鴒原頭爭死生、追憶當年都似夢、恩讐携手一門榮、

駿州清水港高原徹也

物換星移五十年、祠前相弔淚潸然、風雲呑吐一場夢、長在九華城址眠、

桑名郡桑名町高島量次郎

勝則官軍敗賊軍、成敗在天只仰君、京洛之外烏羽路、苦戰奮鬪掃妖氛、

見義不爲非男兒、人間何畏虎狼威、天下候伯多巾幗、傍觀碌々何所爲、

我也孤軍不顧身、血戰縱横滿身紅、硝煙漲天晝猶暗、劍火飛野氣吐虹、

燕謀事破韓魏撤、秦業既成齊楚滅、可憐樂毅空數奇、魯連東海全其節、

君不見若松城邊戰雲連、同盟將士奮誓天、張儀之舌斷不可、往々守節

入九泉、難奈東風終不揚、策盡約解空悲傷、敗軍之將不可語、冤恨只欲

呑薩長、會津之花桑名月、神州到處推卓越、感來悲壯提劍吟快馬何日

踐妖窟、回頭五十年前事、遺老收影大厦傾、我來懇弔忠勇跡、松籟猶聞

斷腸聲、

桑名郡益生村辻市治郎

百戰沙場意氣爭、勢窮力竭若爲情、寶幡猶帶風雲色、虛籟似傳刀戟聲、

許國丹心誰喚賊、蓋棺公論世垂名、遺靈長鎭古城裏、來饗鄉人薦潔盛、

桑名郡桑名町村田祥太郎

老松蓊鬱護祀宮、百尺銅標摩半空、來賽苔階春有恨、櫻花撲地想雄風、

南牟婁郡神川村瀧神社社掌　上田直見

老樹森々遶社前、杜鵑啼血夕陽邊、請看報國忠勤士、弔慰英魂五十年、

愛知縣海部郡佐屋村　黑宮白石

飄瞥人生如逝川、戊辰空過五十年、落花時節招魂處、懷古低徊思悵然、

桑名郡大山田村山本源太

壯心鐵石百臣僚、勇氣奔騰萬仞超、甲子勵忠摧骨去、戊辰依義作煙消、
雄姿彷彿舊情洽、芳迹分明遺草饒、招得英靈也如在、行來祭典慰無聊、

桑名町矢田俊正

仝

此身可護國、此心可報公、煥乎東帝國、文化日隆々、休問戊辰事、吳越今
同功、聖皇儼在上、億兆齊欽崇、恤典及枯骨、銅碑長表忠、一夢五十祀、國
香牡丹風、

鈴鹿郡龜山町山崎重樹

澱水堤邊暗戰塵、蛤門守衛致其身、追思五十年前事、芳烈永傳萬古春、

桑名郡桑名町從六位勳五等松浦正重

裘褐已過五十年、桑田滄海恨綿々、感來偏灑追懷淚、懇弔忠魂行社前、

仝

昨是今非順逆顚、忠肝義膽永昭然、何圖四海一家日、回顧招魂五十年、

二川佳豐

仝

祠頭雨歇絕煙塵、旗幟飄風日色新、欲慰英魂轉生感、照來靑史五十春、

古川英太郎

三重郡富田町近藤李

殉節不違丈夫志、濺將碧血報邦君、吊來五十年前事、一炷香烟亂似雲、

桑名郡桑名町秋山斷

杜宇聲々咽、落花飛滿城、欲言々不盡、一片感懷情、

東京市麻布區佐治爲善

五十星霜夢裡移、回頭戎馬戊辰時、身殉君國爲忠鬼、血灑山河染義旗、
一夜雨爲流水咽、暮春恨有落花知、祠前悄弔英魂處、彷彿如看烈士姿、

仝

舊會津藩士齋藤一馬

京山越海轟雷霆、想見當年戰血腥、今是昨非向誰問、蕪辭和淚弔英靈、

仝

麴町區酒井莊敬

一死委天地、唯當報國恩、快哉盡忠志、不愧大和魂、

桑名郡桑名町正八位　水野常準

伏見鳥塲勢己窮、隅州義舉擁輪宮、東臺春淺櫻花未、惟見滿山舖落紅、
三道官軍圍稱翠、五稜決戰付秋桐、生死唯命所何惜、勝敗是機豈必忡、
離縱誰言誤順逆、丈夫不負節兼忠、昨非今是如行水、世態人情似疾風、
回頭半百年前夢、杜宇青嶂白骨空、

仝　水谷長之助

五更打鼓一聲鐘、恨入當年百感重、却憶英雄多戰死、吾曹到此涕沾胸、

東京市赤坂區森千代壽

碧血濺盡我事終、雄魂長留故城東、生存將士今方老、五十周年一夢中、

文藻

定晴謹ミテ殉難諸士ノ靈前ニ白ス今茲丁巳五月桑名士民相謀リ茲ニ戊辰役各地殉難舊藩諸士ノ爲メニ其五十年祭ヲ擧行セラル定晴殊ニ感慨ノ至リニ堪ヘス恭ク惟フニ我舊藩始祖鎭國公ノ桑名就封ハ寛永十二年乙亥ニ在リ爾來慶應三年丁卯ニ至ル二百三十有餘歲其間公ノ裔孫或ハ北越高田ニ東奥白川ニ移封セラレタリシモ後重ネテ桑名ニ復封セラレタルハ文政年間ニ在リ而モ始

祖以降第十三代大心公ニ至ル二百三十餘年間ニ於テ能ク國家藩翰ノ重任ヲ完フシ養士治民ノ功德顯著ナル者ハ實ニ始祖ト中興祖守國公トヲ推ス能ク此両祖公ノ遺志ヲ紹キテ藩士藩民ト共ニ心力ヲ國家多難ノ際ニ盡シ以テ畏クモ

孝明天皇陛下ノ

叡感ヲ蒙リタル者ハ定ニ大心公是也夫吾大心公君臣ガ特ニ忠勤盡力以テ

朝廷ノ信任ヲ蒙ルコト此クノ如シ然ルニ一朝浮雲日ヲ蔽ヒ變亂勃發ト共ニ吾桑名舊藩君臣ハ意外ノ寃禍ニ罹リタル者即チ戊辰ノ難是也此時ニ當リ其藩士タル者武門ノ習トシテ君辱メラルレハ臣死スルノ本義ニ伏リ以テ身ヲ獻ゲ命ヲ抛チ各自當然君臣ノ義ニ殉シタル者一百餘人嗚呼諸士ヨ諸士ノ殉難ハ豈義烈ト謂ハサルヘケンヤ

顧フニ元治甲子禁門ノ亂其守衛ノ任ニ當リ挺進奮戰シテ其難ニ殉セル舊藩三士ガ無限ノ聖恩ニ浴シ靖國神社ニ合祀セラレタルハ大正四年乙卯四月ニ在リ戊辰殉難

諸士ノ精神節義ハ甲子殉難三士ト相均シキコト勿論タリ然ルニ其彼此境遇形迹ノ相異ナル故ヲ以テ之ヲ軒輊スルカ如キハ豈慨セサルヘケンヤ抑モ義勇奉公献身犧牲ハ昔ニ在リテハ則武門ノ常道タリ今ニ在リテハ則帝國臣民當然ノ本分タリ諸士ノ殉難ハ實ニ能ク武門ノ常道ヲ實踐シ以テ節義ヲ完フセル者也其レ然リ諸士ノ義烈ハ定ニ鎭國守國両祖公ノ遺訓ニ奉對シテ恥ヂサル者ト謂フヘシ不肖定晴幸ニ明治ノ聖代ニ生レテ大正ノ今日ニ至リ桑名士民諸君ト均シク此帝國々運國勢ノ日新隆興ヲ仰キ奉リテ深ク

皇恩ノ洪大無量ニ感スルト同時ニ殉難諸士ノ義烈カ冥々中ニ自ラ此世道人心ノ振興ヲ助ケ以テ國勢ノ振展ニ貢献スル所アルコトヲ認メサルヲ得ス嗚呼諸士ノ義烈ハ長ヘニ不滅ノ光タリ永遠不朽ノ力タルヤ必セリ今ヤ此祭典ニ際シ諸士ノ英靈ガ鎭國守國両祖公ノ英靈ト共ニ北勢山川ノ上ニ彷彿トシテ來リ格ルヲ想ヒ感慨滿腔自ラ止ム能ハス謹シテ一言以テ微衷ヲ述ブ

大正六年丁巳五月

子爵　松平定晴

諸士ノ精神節義ハ甲子殉難三士ト相均シキコト勿論タ
輕ハ輒ノ誤ノ然ルニ其彼此境遇形迹ノ相異ナル故ヲ以テ之ヲ軒輕
スルカ如キハ豈慨セサルヘケンヤ抑モ義勇奉公献身犧
牲ハ昔ニ在リテハ則武門ノ常道タリ今ニ在リテハ則帝
國臣民當然ノ本分タリ諸士ノ殉難ハ實ニ能ク武門ノ常
道ヲ實踐シ以テ節義ヲ完フセル者也其レ然リ諸士ノ義
烈ハ寔ニ鎭國守國両祖公ノ遺訓ニ奉對シテ耻ヂサル者
ト謂フヘシ不肖定晴幸ニ明治ノ聖代ニ生レテ大正ノ今
日ニ至リ桑名士民諸君ト均シク此帝國々運國勢ノ日新
隆興ヲ仰キ奉リテ深ク
皇恩ノ洪大無量ニ感スルト同時ニ殉難諸士ノ義烈カ冥
々中ニ自ラ此世道人心ノ振興ヲ助ケ以テ國勢ノ振展ニ
貢献スル所アルコトヲ認メサルヲ得ス嗚呼諸士ノ義烈
ハ長ヘニ不滅ノ光タリ永遠不朽ノ力タルヤ必セリ今ヤ
此祭典ニ際シ諸士ノ英靈ガ鎭國守國両祖公ノ英靈ト共
ニ北勢山川ノ上ニ彷彿トシテ來リ格ルヲ想ヒ感慨滿腔
自ラ止ム能ハス謹シテ一言以テ微衷ヲ述ブ

大正六年丁巳五月

子爵　松平定晴

癸丑之歲、外艦來干浦賀、上下震駭海內鼎沸、侯伯異其見互相反目、遂生甲子之變、腥風荒干西陲、更致戊辰之亂、血雨濺干東邊、當此時、藩之諸士一百有餘人、皆執義死節、竊謂諸士能守藩祖鎭國公之訓、持丈夫之志、臨難而不屈、挺身而不退、百戰奮鬪、而時不利、蓋大厦之將覆、有一木之不能支者也、然而致其身於所事、垂範干後世焉、可謂忠良之士也、以是建一祠祭之有年矣、今茲丁巳距戊辰五十年、鄉黨相謀舉行祭事、遠近來會者幾千人、舊藩侯定敬公後嗣定晴公、追先考之志、亦遠自帝都來、親祭之、諸士可以瞑也、今也星移物換、天下統一、聖天子在上、旰宵不寧、憲章燦然、上下一心、修文振武、以外足扞列强之窺窬、而內無復兄弟鬩牆之憂也、幽冥之間、諸士亦得知之、然則不復疑忘五十年前睚眦之怨而其魂長安靜干故山也、恭捧清酌庶羞之奠、祭其威靈、尙饗

大正六年五月十四日

臨時招魂大祭々事委員長　高松範重

大正六年五月十四日招魂ノ祀典ニ當リ回顧スレハ戊辰ノ役國歩ノ難キ吾桑名舊藩ノ諸士各地ニ轉戰シ唯一身君恩ニ報スルヲ知リテ其他ヲ顧ルニ遑アラス終ニ尸ヲ原野ニ横ヘ臣節ヲ全フシ以テ綱常ヲ千載ニ扶植ス今ヤ年ヲ經ル已ニ五十乾坤一大變ス而シテ其忠義壯烈ノ氣長ク朽チス遺風又以テ後人ヲ起スニ足ル俯仰感慨自ラ已ム能ハス一言ヲ叙シテ以テ祭辞ニ代フ

大正六年五月十四日

桑名郡會議長　岩尾惇忠

夫甲子變者、大政奉還之暮夜戰、而幕府季葉之跋也、戊辰役者、王政復古之曙光戰、而維新盛世之序也焉、我桑名藩爲幕府參加干這個暮曙戰、奮然血鬪殉難者百又九名、一志如鐵百念如水、唯忠唯義何有暇論順逆哉、蓋當政體革新之秋、出幾多烈士犧牲者、今古西東史乘所明證又不足怪也、春風秋雨五十年、于茲、大正六年五月十四日、爲此等殉難諸士、行臨時記念大祭於桑府舊趾社頭、以祀其英魂毅魄、馳想當年則魂飛神往感慨何堪焉、嗚呼金中之紫磨玉裡之夜光、千載之下耿々不失其光、精忠雄節可使鬼神泣、可使懦夫立、茲恭灑龍雛紫拳於曾水之清籃、跪而薦紅霞一缸、英靈髣髴而來享、

桑名町長　飯田一畝

維時大正六年五月十四日、桑名晩生高島量次郎、謹以清酌庶羞之奠、

祭桑名藩戊辰戰役殉難諸士之靈、

元治慶應之際、天下稍亂、二二雄藩唱尊王討幕說、會桑二藩則佐幕府而勤王事、遂爲伏見鳥羽之役、當是時天下諸侯持兩端向背不決、既而有爲內應者、大勢忽傾、上下隔絕、嗚呼神州之民誰有引弓於天朝者、然而一朝被汚名、武門之所辱也、於是乎孤軍轉戰累月、或曝骨于北越之雪、或沈身于奥羽之澤、以盡臣子之節、嗚呼哀哉、抑我公家養士二百五十年、明君在前、維武維文、忠臣如山、義士如泉、而一朝遇戊辰之難、天道果是耶非耶、使人長歎、」雖然今也天下大勢變爲討閥、會桑曩日之舉却爲世所服悅、朝廷亦憐其丹衷、除過惡之列、皇天上帝眼分明者果實矣、」夫人生誰無死、生而支當年之頹波、死而發今日之精華、復何嗟、」嗚呼可以瞑矣、尙饗、

高嶋量次郎

跋

春秋五十天地一變凡耳目所及皆非復當日之舊焉風俗人情亦從而變焉其間唯殉難節義則磨而不磷涅而不緇凛乎與山河並立同流而長不盡足以起後人其於風俗人情所關大矣今茲丁巳

距戊辰五十年感懷之集得此一卷而傳之於後今日之感既如此後年之感又何如哉書感以爲跋

大正六年五月

秋山斷

謹識

附錄

〔桑名舊城址御本丸招魂社ニ奉祀スル甲子及戊辰ノ戰役ニ於ケル殉難者ノ氏名及戰歿ノ月日場所ヲ左ニ掲ケ以テ參考ニ供ス〕

舊桑名藩士殉難者氏名

元治甲子之役

七月十九日京都堺町御門ニ於テ戰死　赤松茂　須藤勝司　伊藤繁

明治戊辰之役

正月三日山城國下鳥羽ニ於テ戰死　岩崎卓爾　面川修輔

仝　新居良次郎　渡部多惣右衛門

仝　山内金次郎　下田岩五郎

仝　富士田忠五郎　西野常藏

仝　富士田領右衛門　岡本雄次

仝　岡鉦右衛門　高野一郎左衛門

正月三日山城國下鳥羽ニ於テ戰死

仝

京都ヨリ大阪ヘ引上ノ途銃傷ヲ受ケ後死歿スト云フ

紀州路ヘ退去ノ際死歿ス

東京深川靈岸寺ニテ割腹

五月十五日東京上野ニテ戰死金杉圓通寺ニ葬ル

五月十五日東京上野ニテ戰死金杉圓通寺ニ葬ル　杉田作藏
仝　川本惣兵衛
仝　北越常吉
仝　友田喜内
三州山下ニテ自殺ス　岡本藏太
京都ニテ浮浪ノ徒捕獲ニ向ヘ格闘シテ死ス　六月五日同　本間久太夫
藤崎猪之右衛門
四月十九日野洲宇都宮ニテ戰死　笹田銀次郎
仝　岩崎彌五郎
仝　不破彈藏
仝　小林權六郎
仝　高見民藏
仝首級敵ニ奪ハレ宇都宮城攻落ノ節之ヲ城中ニ發見ス　岡正三郎

同日壬生安塚ニテ戰死　神山金次郎
四月二十七日越後鯨波ニテ戰死　小出冬次郎
仝所ニテ重傷五月朔日死歿ス妙法寺ニ葬ル　三宅厚
仝所ニテ重傷小寺喜代雅介錯ス　駒木根元一
仝所ニテ重傷廿八日牢田村ニテ死歿ス　平野吉五郎
四月二十七日柏崎ニ於テ亂軍ノ際行衛不明トナル　余語代橘
五月十一日越後朝山ニテ戰死　馬場清次
仝　本田龍藏
仝所ニテ重傷仝月加茂町ニテ死歿ス　戸狩金吾
五月十一日長岡領妙見山ニテ負傷廿日加茂ニテ死歿ス　河村善左衛門
五月十九日長岡落城ノ節仝城下ヨリ生死不明トナル　坂勇右衛門
五月二十八日越後元與板ニテ戰死　清水良助
仝　木原熊右衛門

仝　細谷又之丞
五月二十三日　仝上　松野龜若
五月二十八日越後元與板ニテ戰死　鈴木右衛門七
仝　山内半平
仝所ニテ敵ニ捕ハレ斬首セラル　伊藤金八郎
五月二十九日與板領大山ニテ戰死　關矢金右衛門
六月朔日與板領大山ニテ重傷仝日北野ニテ死歿　佐藤鉦藏
六月朔日越後備後山山下ニテ戰死　大平九左衛門
六月二日越後北野村ニテ戰死　小森民五郎
六月朔日大山ニテ重傷仝日北野ニテ死歿ス　景山勝藏
六月十一日大山ニテ敵將長藩國原勝助ヲ斃シテ戰死　馬場三九郎
六月十七日仝所ニテ戰死　梶川彌左衛門
六月二十四日越後木ノ月峠ニテ戰死　中嶋角左衛門

六月十三日越後大山ニテ戰死　村田鍊太郎
六月二十八日越後加茂町ニテ病歿ス　鈴木彌三郎
五月十九日長岡ニテ負傷七月五日會津若松ニテ死歿ス　高崎清次郎
五月十三日越後朝日山ニテ重傷七月二日會津病院ニテ死歿ス　山添仙司
七月十四日與板大山ニテ重傷十六日加茂町ニテ死歿ス　前田專次郎
七月二十二日越後林村脇山ニテ戰死　玉井五郎兵衛
五月十九日長岡ニテ負傷七月九日會津若松ニテ死歿ス　畑三八郎
八月四日越後加茂福嶋關門山上ニテ戰死　淺井照彌
仝　豐田喜右衛門
八月四日越後加茂福嶋關門山上ニテ戰死　不破專次郎
八月三日越後三竹村ニテ戰死　吉岡盛之助
越後長岡在ニテ病歿　佐藤元輔
八月二十三日會津馬喰町ニテ戰死　和田勝太郎

八月二十三日會津馬喰町ニテ戰死	淺野五郎
仝	米富繁右衛門
仝	小柳佳助
仝 富永太兵衛介錯ス	鳥飼次郎
仝	中村藤六
仝	杤尾恕三
八月二十三日會津馬喰町ニテ戰死	上月龜太郎
仝	品田金八
仝 小河内八十之亟介錯ス	小澤源太郎
仝	五十嵐藏右衛門
五月廿九日越後與板ニテ重傷九月廿九日會津ニテ死歿ス	三輪爲藏
八月二十三日會津馬喰ニテ重傷檜原ニテ死歿ス	岩崎助次
八月二十八日會津立退ノ途中高久川ニテ溺死ス	島田三五郎
八月二十三日會津ニテ會藩某ヲ殺シ脫シテ水戸地方ニテ死スト云フ	加藤鑄介
會津馬喰町ニテ負傷出羽山形ニテ死歿ス	田中久榮
出羽山形在ニテ割腹ス或ハ敵ニ圍マレ殺サルトモ云フ	岡田平右衛門
九月二十日出羽寒河江ニテ戰死	三谷卯之右衛門
仝	淺井金五郎
仝	山脇仲右衛門
仝 高木剛次郎介錯ス	久松三郎
仝 山本數馬介錯ス	岡安榮之進
仝 松浦秀八介錯ス	町田鎌五郎
仝 立見鑑三郎介錯ス	宇都野新兵衛
仝	金子覺彌
仝	梅澤宗助

仝 夏井忠三九介錯ス	泉甲之助
九月二十日出羽寒河江ニテ戰死	長瀨金太
仝 生沼文平介錯ス	田中鎌五郎
仝	伊藤喜三郎
仝	杉村安藏
仝	不破古門
仝	河村正治
仝 植地房藏介錯ス	谷三十郎
仝所ニテ重傷十一月二十六日庄內大山ニテ死歿ス	樋口次左衛門
八月廿三日會津馬喰町ニテ負傷九月廿一日庄內ニテ死歿ス	小寺喜代稚
五月廿九日與板大山ニテ重傷九月廿五日庄內ニテ死歿ス	大村一郎治
九月廿日出羽寒河江ニテ負傷十月六日庄內ニテ死歿ス	長島民藏
箱館ニテ戰死	竹內武雄
十一月晦日箱館ニテ病歿ス	佐治寛
明治二年正月十一日庄內ニテ病歿ス	渡邊淺右衛門
九月廿九日 同上	岡本作十郎
二年三月廿五日庄內ニテ病歿ス	小林爲輔
二年三月二十五日庄內ニテ傷痍再發發狂自殺ス	相馬芳右衛門
二年七月三日尾花澤ニテ死歿天童三寶寺ニ葬ル	柄田彌一右衛門
明治元年正月桑名開城ノ際主戰論ヲ唱ヘ割腹ス	山本主馬
仝 上	小森九郎右衛門
戊辰戰役朝敵ノ首謀者トシテ藩主ニ代リ政府ニ申出明治二年十一月十三日刑ニ就ク深川靈岸寺ニ葬ル	森彌一左衛門

計 百十四名

此譯 甲子之役 三名
戊辰之役 百十一名

備考

戊辰之役軍隊主腦幹部ノ氏名

軍務總督　山脇十左衛門　致人隊長　松浦秀八

神風隊長　町田老之丞　雷神隊長　立見鑑三郎

附言

今回戊辰戰役殉難者五十年ノ臨時招魂大祭擧行ニ際シ將來紀念ノ爲メ献詠詩歌ヲ募集スルコトトナリ大方諸彦ニ向テ玉詠ノ寄送ヲ需メタルニ吟詠回寄越サレタル數和歌ニ在テハ五百三十有餘漢詩八十八俳句三十餘首ノ多キニ達シタルハ之レカ取扱者ノ頗フル滿足スル次第ニ有之本募集及編纂ニ付テハ高木貞作秋山斷久我清民三先生ノ不一方配神助力ニヨリ此好結果ヲ得タルコトヲ玆ニ感謝ト共ニ表明ス又本書編纂ニ當リ高木貞作君外有志諸彦ヨリ若干ノ金員寄贈ヲ辱ナフシ以テ本册

子ノ大成スルコトヲ得タルハ是亦其芳情ニ對シ深ク感謝スル所ナリ聊カ概要ヲ述ヘ以テ附言トス

大正六年　月

献詠詩歌取扱員

松浦正重

敬具

名市
868
55.11.7
図書館

大正六年八月廿五日印刷
大正六年九月一日發行

（非賣品）

發行兼編輯人　三重縣桑名郡桑名町大字内堀八十二番屋敷　松浦正重

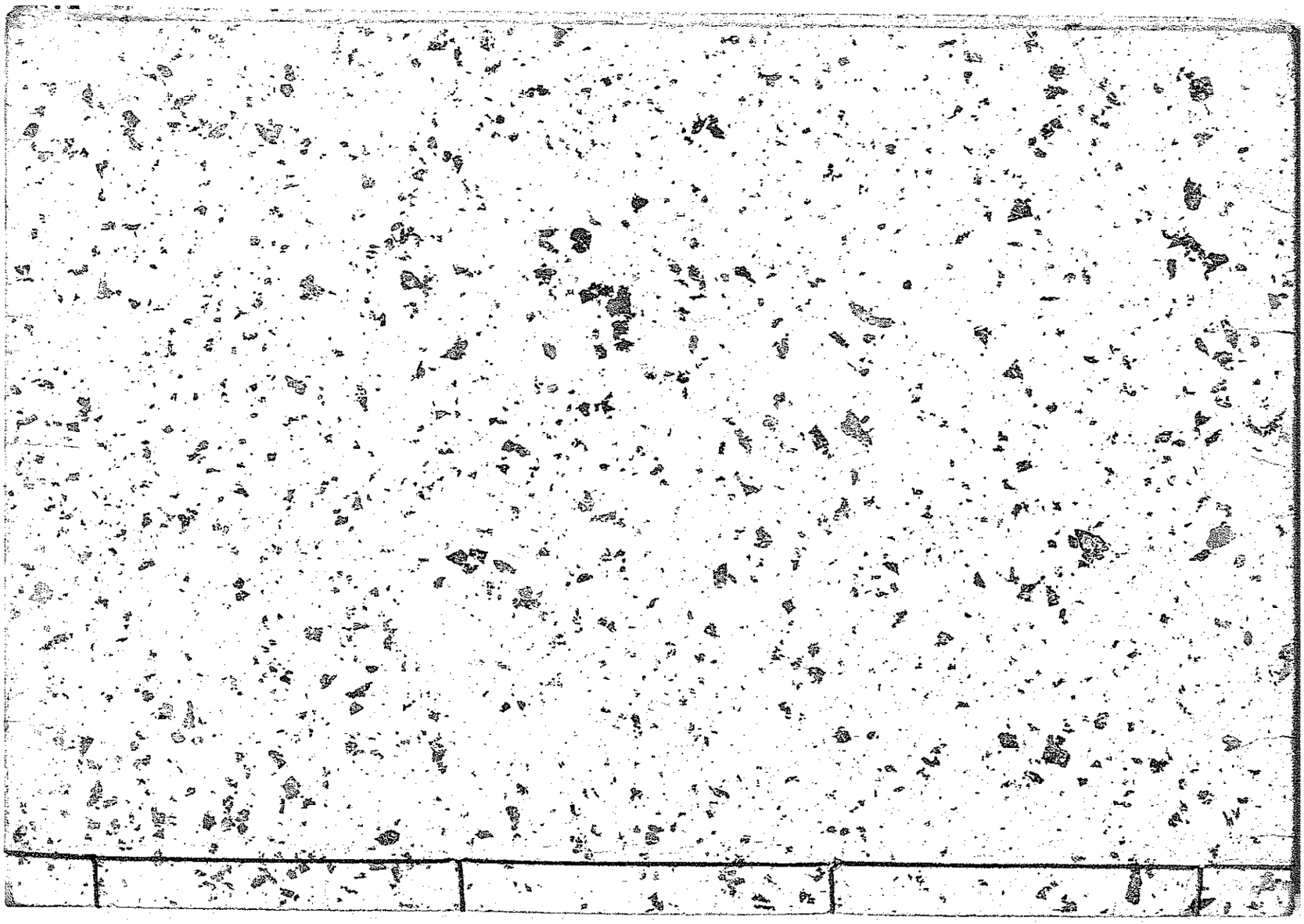
印刷人　三重縣桑名郡桑名町大字桑名百三十五番屋敷　長瀬貞造

印刷所　三重縣桑名郡桑名町大字桑名百三十五番屋敷　桑名商況新報社

申國　桑谷商店新聞社
三重縣桑谷郡桑谷西大字桑谷百三十五番屋敷

申國人　長瀬貞造
三重縣桑谷郡桑谷西大字桑谷百三十五番屋敷

發行兼編輯人　松都五重
三重縣桑谷郡桑谷西大字內黑八十二番屋敷

大五六年五月一日發行
大五六年八月廿五日申國

（非賣品）